



万亭應賀著
一陽齋豊國画

戊申暮
村板

錦産草样

文之序
九編

万亭

錦産草

~13
3836
4



倭文庫九編

万亭應賀作

弘化五年

戊申春

新版



上



門へ13
 3836
 4
 卷

釋迦八相

倭文庫

九編上

万亭應賀作

一陽齋豊國画



元大坂町代地角
 上州屋重藏梓

釋迦八相倭文庫九編之序

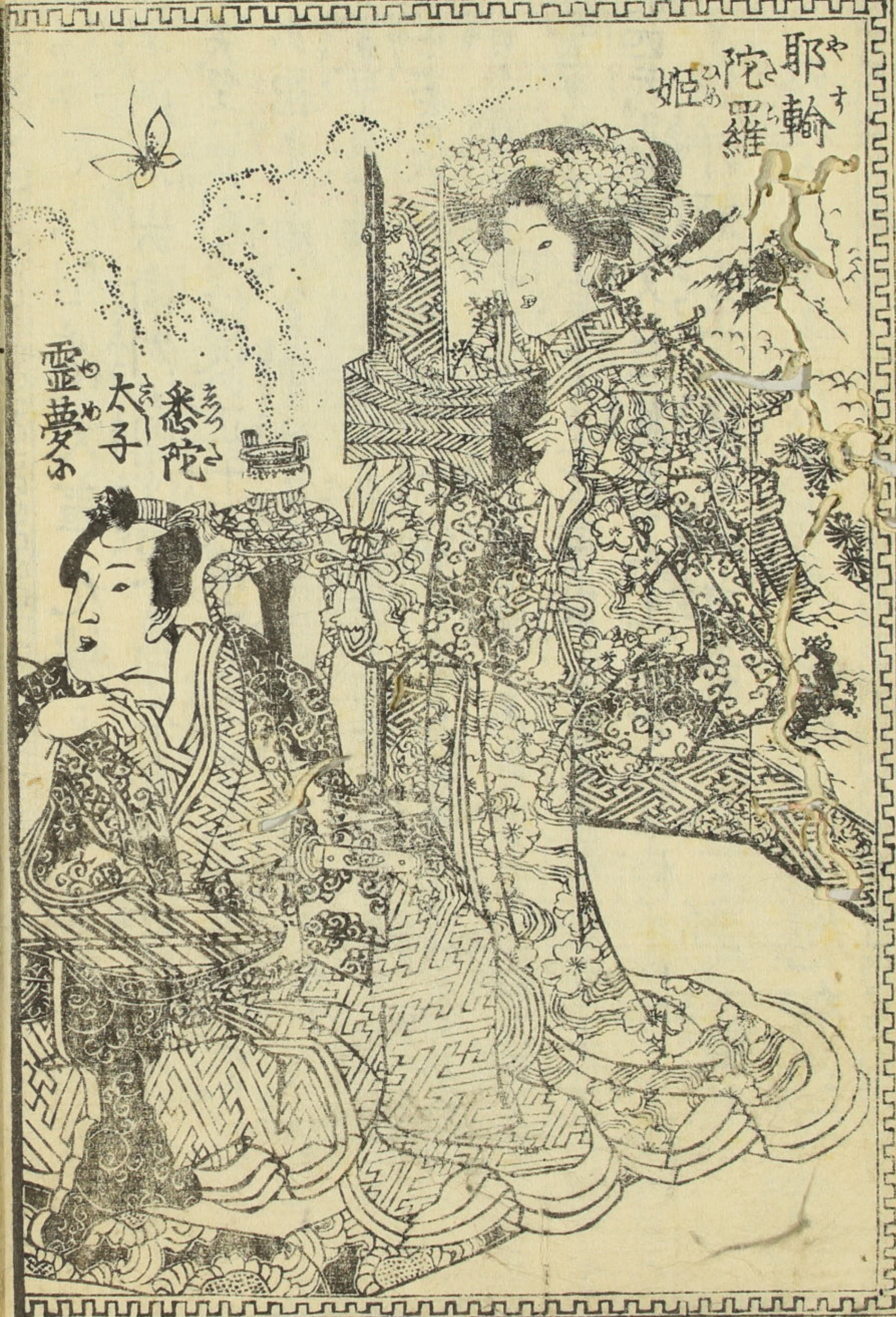
夫須彌山の南洲と南浮提との日本震旦天竺の比白此中より余の
 天竺の其南浮提の正中大國ありて王城ありてその王の釈迦氏之抑此國
 の祖先原る昔光音天の衆の地遊戯飛行自在を時不
 和日其甘味と取喰ひて身孕の飛行を能く食を思ふ故に穀米
 生を長四寸半朝の初め夕の生をこれを喰ふ故に男女の形今も后
 日本食の發て初に再生を侵奪とありて智者と撰て國王不定む名
 と平等王と云是より二十之世に至りて善思王轉輪聖王の位を証して
 四天下を治む又百一萬五十六王を経て師子頻王の自天子踐祚をこ
 とし淨飯大王と稟を今序の如く是と茲小日足と識を
 弘化の百年五版告有 万亭應賀述

倭文庫

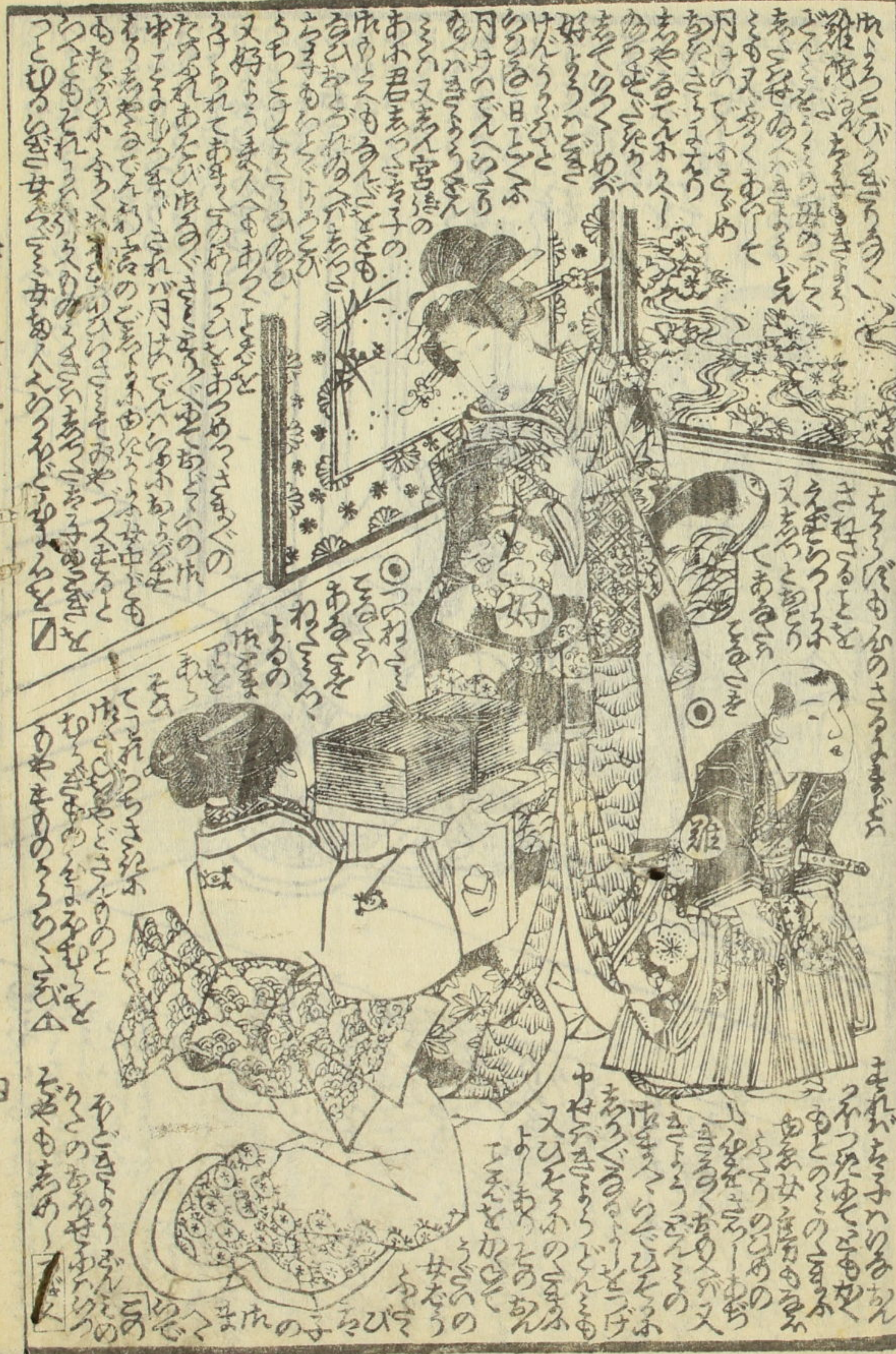
永母文車



耶輸陀羅姫

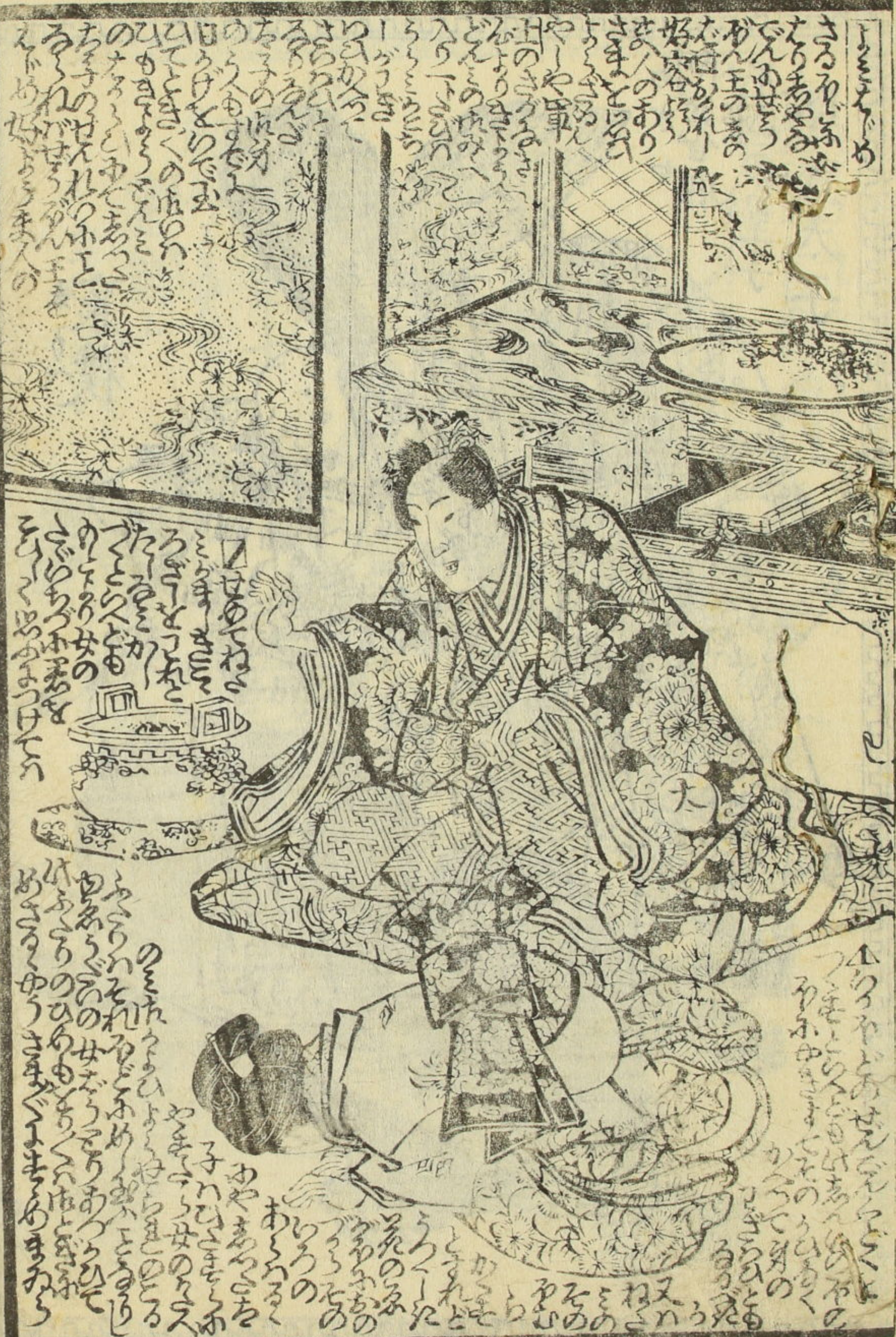






天竺人車

四



作

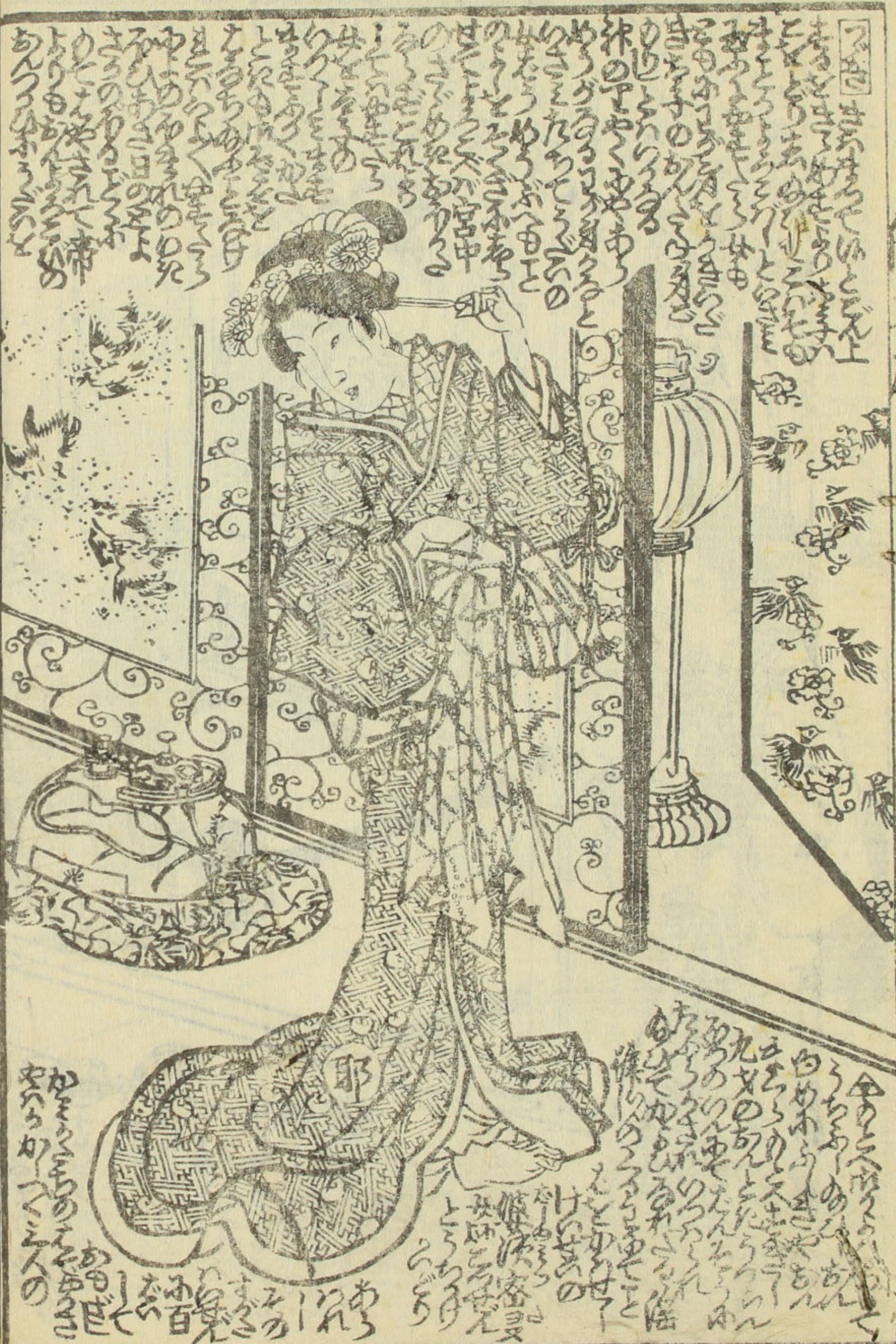
二



Vertical columns of handwritten Japanese text, likely a narrative or commentary related to the illustration.

水車

六



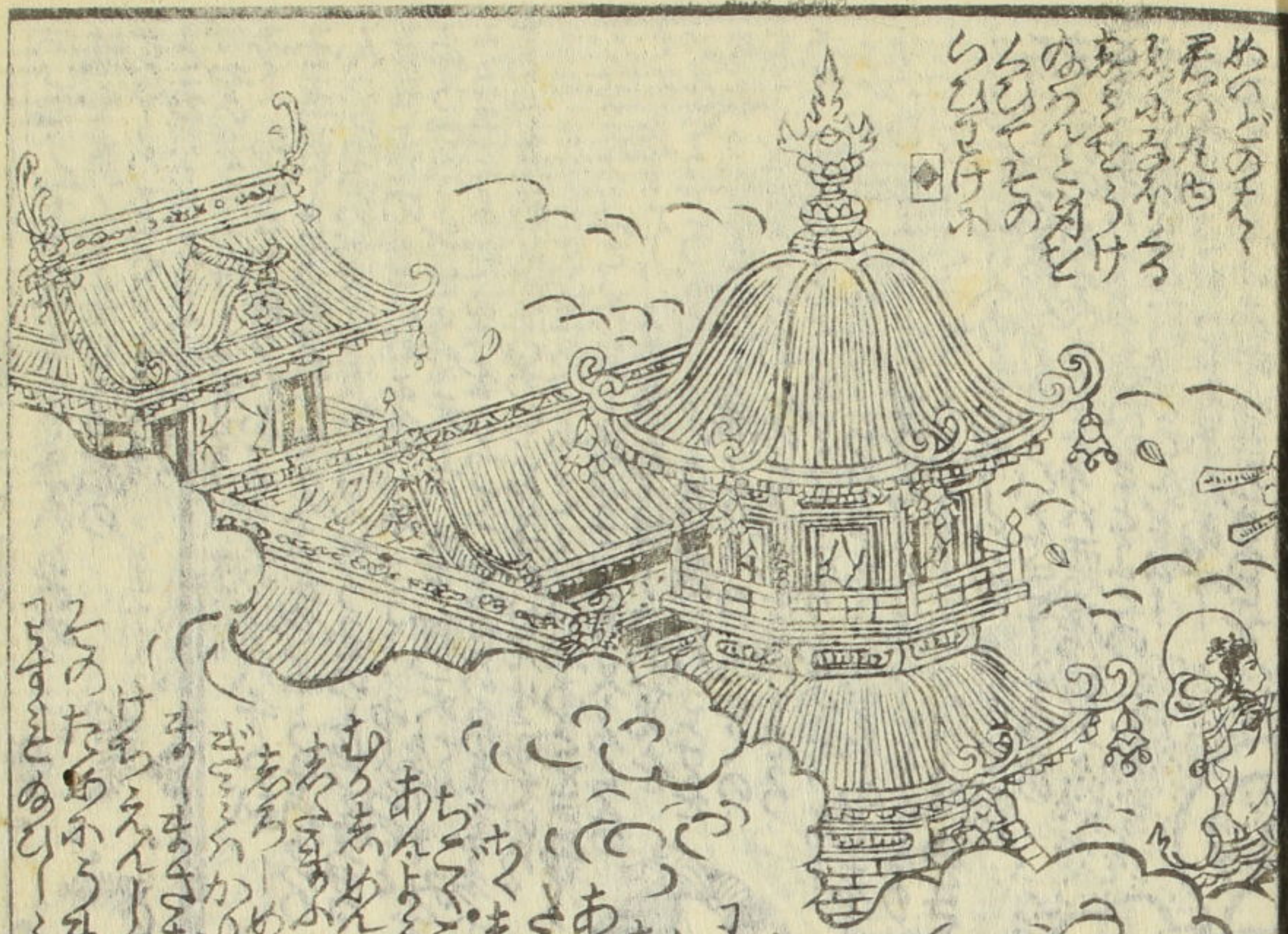
Vertical columns of handwritten Japanese text, likely a narrative or commentary related to the illustration.

水車

五

ついでにちんたのりんとままか
あせすしらすとままか
母のままか
それゆゑのちんたのりんとままか
よみたるままか
あせすしらすとままか
ついでにちんたのりんとままか
あせすしらすとままか
母のままか
それゆゑのちんたのりんとままか
よみたるままか
あせすしらすとままか

あせすしらすとままか
母のままか
それゆゑのちんたのりんとままか
よみたるままか
あせすしらすとままか
ついでにちんたのりんとままか
あせすしらすとままか
母のままか
それゆゑのちんたのりんとままか
よみたるままか
あせすしらすとままか



あせすしらすとままか
母のままか
それゆゑのちんたのりんとままか
よみたるままか
あせすしらすとままか
ついでにちんたのりんとままか
あせすしらすとままか
母のままか
それゆゑのちんたのりんとままか
よみたるままか
あせすしらすとままか

ついでに... 枝や主人がまの宮殿の
こいすくまへくは空あう
とこれのまへええと

かやの天よりけいせうとう
中人らのとちけりかむかあ生八千くむ
玉王殿とてまれのまへええまふうまれの
人よあいのまのまのまのまのまのまの
あまの山よまのまのまのまのまのまの
あまの山よまのまのまのまのまのまの
あまの山よまのまのまのまのまのまの
あまの山よまのまのまのまのまのまの
あまの山よまのまのまのまのまのまの
あまの山よまのまのまのまのまのまの
あまの山よまのまのまのまのまのまの



あてまや
るまけるまのまの
孫室の子まのまの
まのまのまのまの
まのまのまのまの

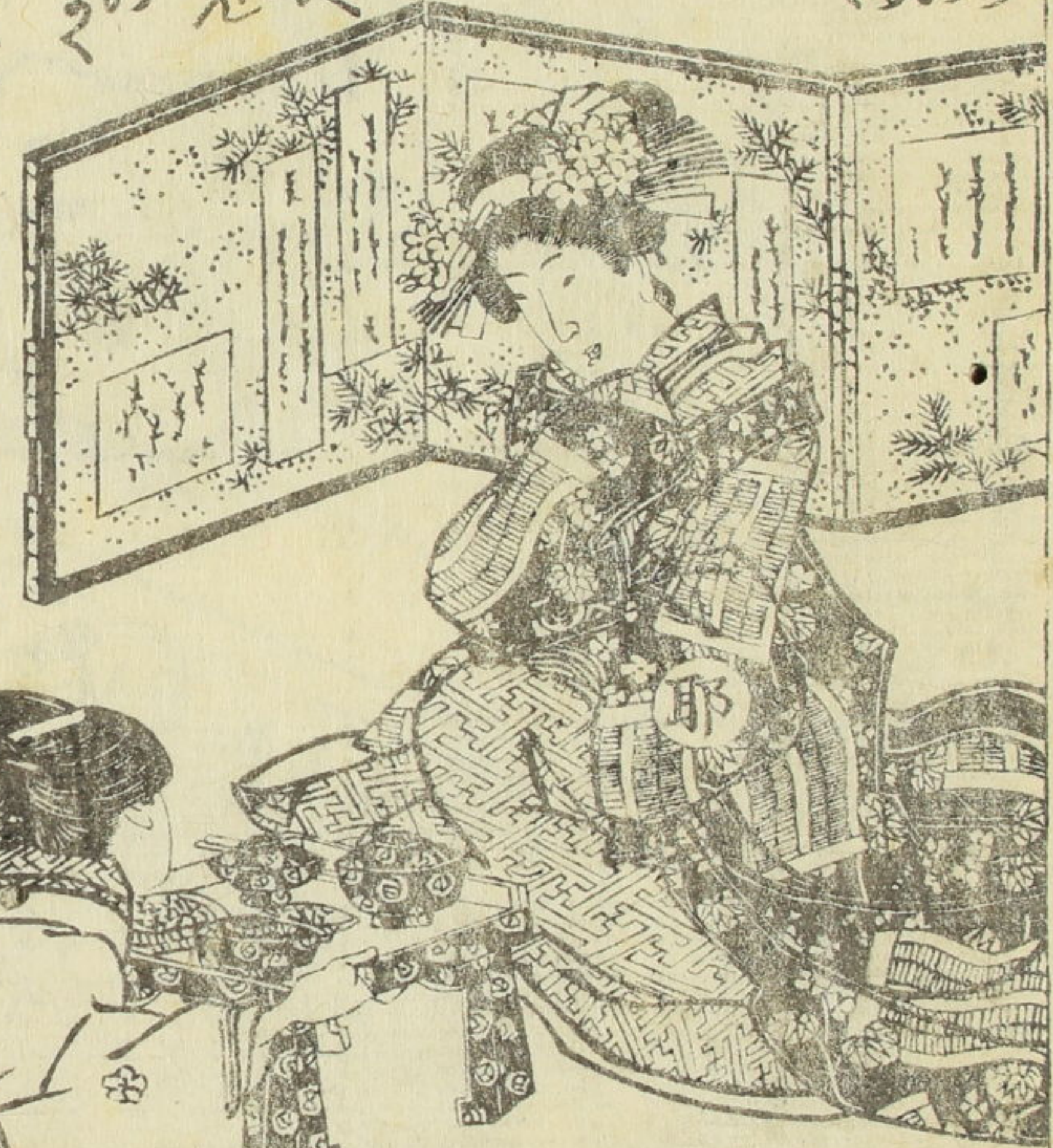
まのまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまの



と有七室
池八功德
まのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまの

豊國画應賀作

ついでついでにきりぎりす
あまのついでの女中の
きりぎりすのやうに
きりぎりすのやうに
きりぎりすのやうに
きりぎりすのやうに
きりぎりすのやうに
きりぎりすのやうに
きりぎりすのやうに
きりぎりすのやうに
きりぎりすのやうに



釋迦 八相 倭文庫

土編 土編 土編 土編 土編 土編 土編 土編 土編 土編
万亭應賀作 陽齋豊國画

忠義 赤松譚

四編 五編 六編 七編 八編
如洲外史作 陽齋豊國画

神代藻塩草

初編 二編
万亭應賀作 陽齋豊國画

紫菜淺草土産

四編 五編
十返舎一九作 陽齋豊國画

日蓮記旭衣

初編 二編
万亭應賀作 陽齋豊國画

重繪草紙錦繪本類

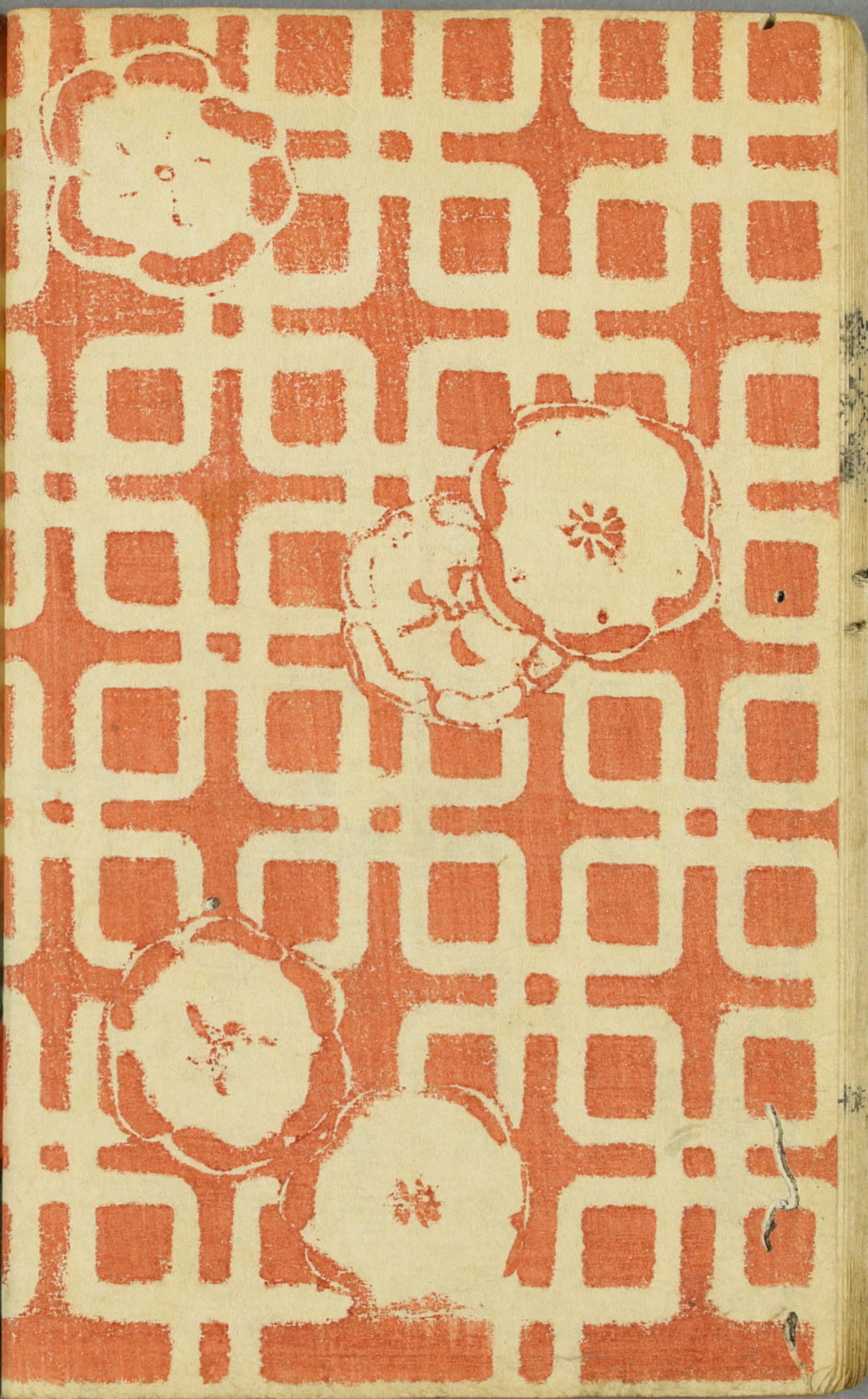
元大坂町代地角
上州屋重藏版



一場齋豊國画

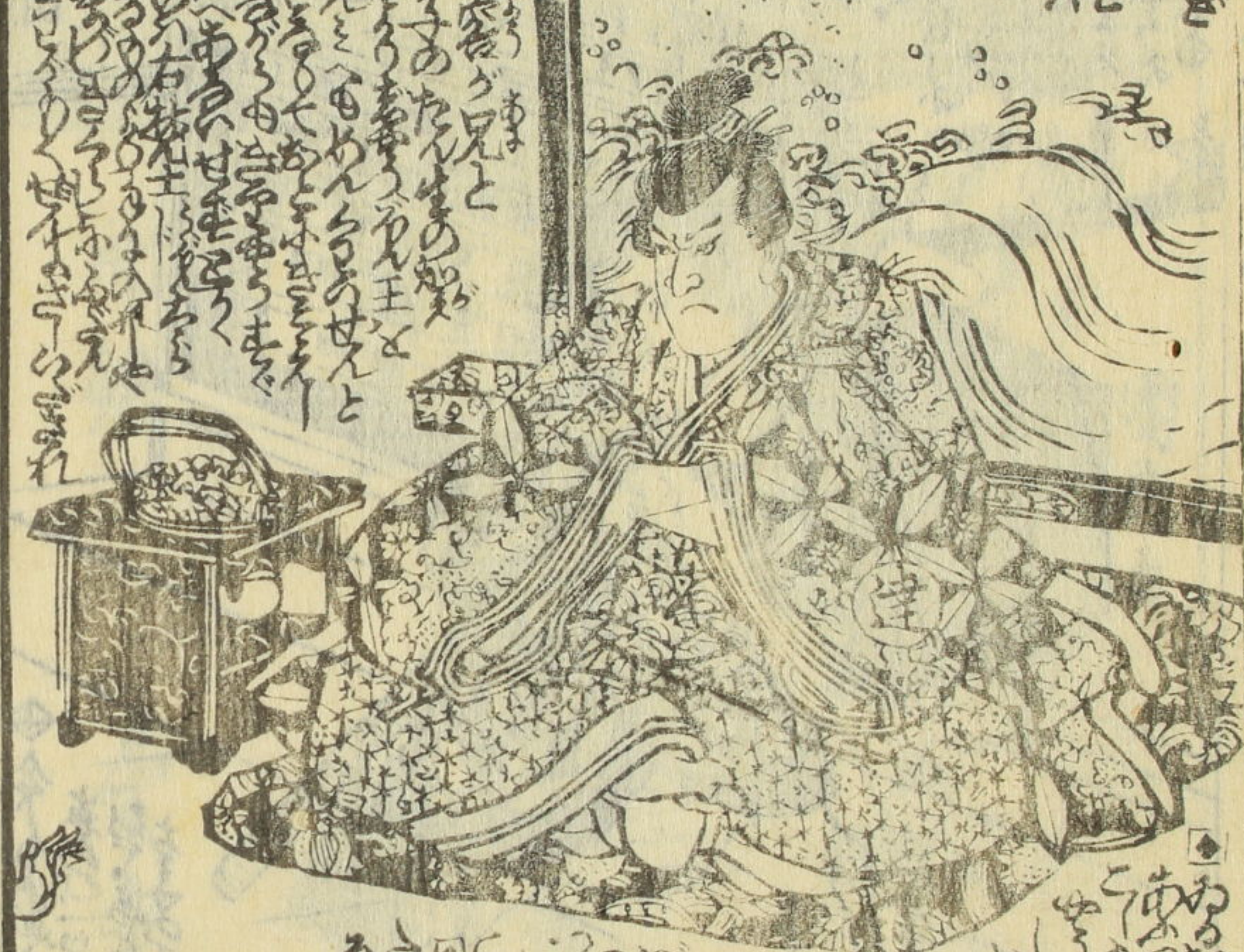
版堂重金

下



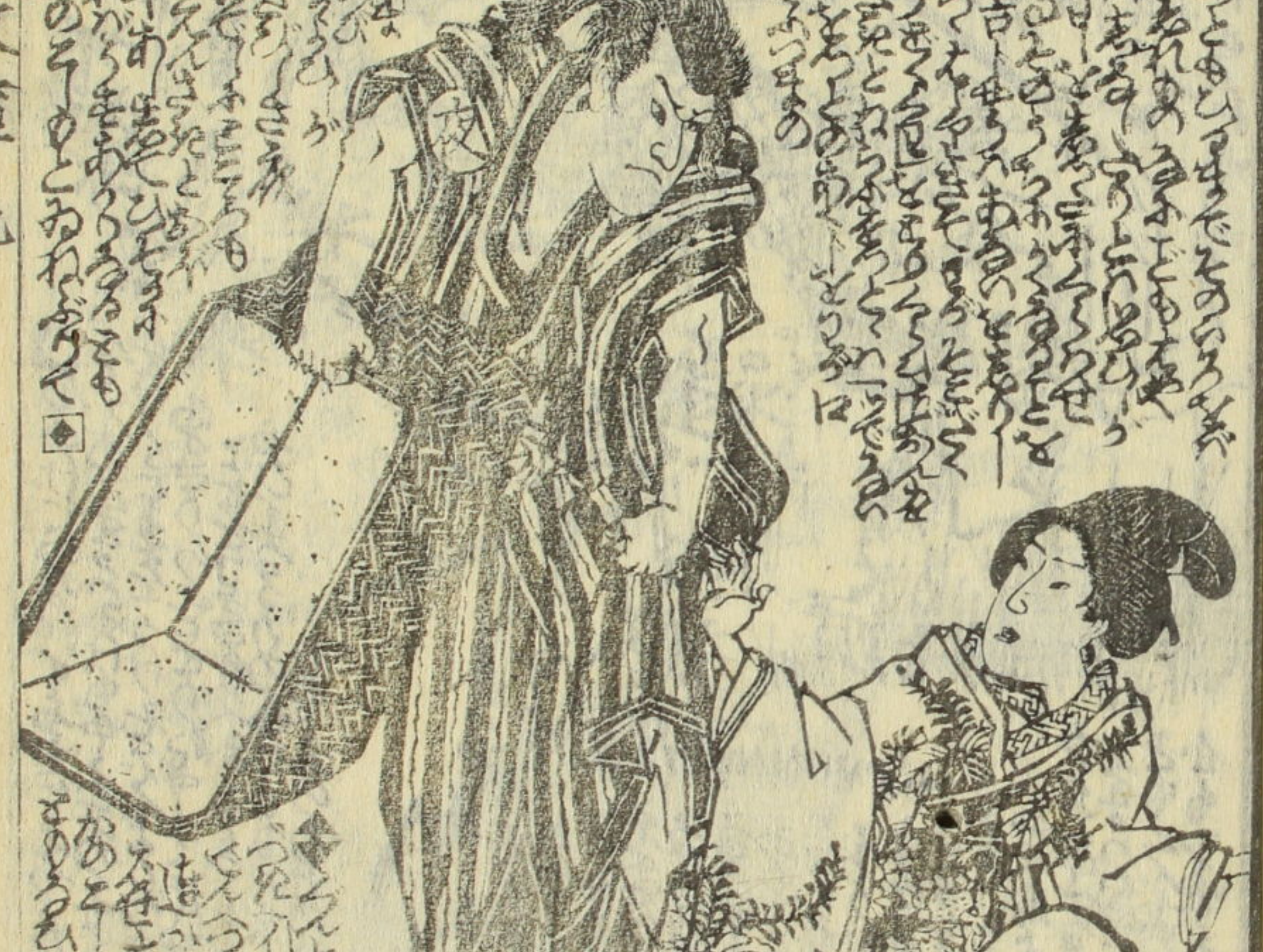
軍士

ついでとありては
 不やかんとおれり
 生かされてゐるか
 さらば死にまわ
 たらせんや
 このちから
 いかん
 こゝろ
 いかん
 こゝろ

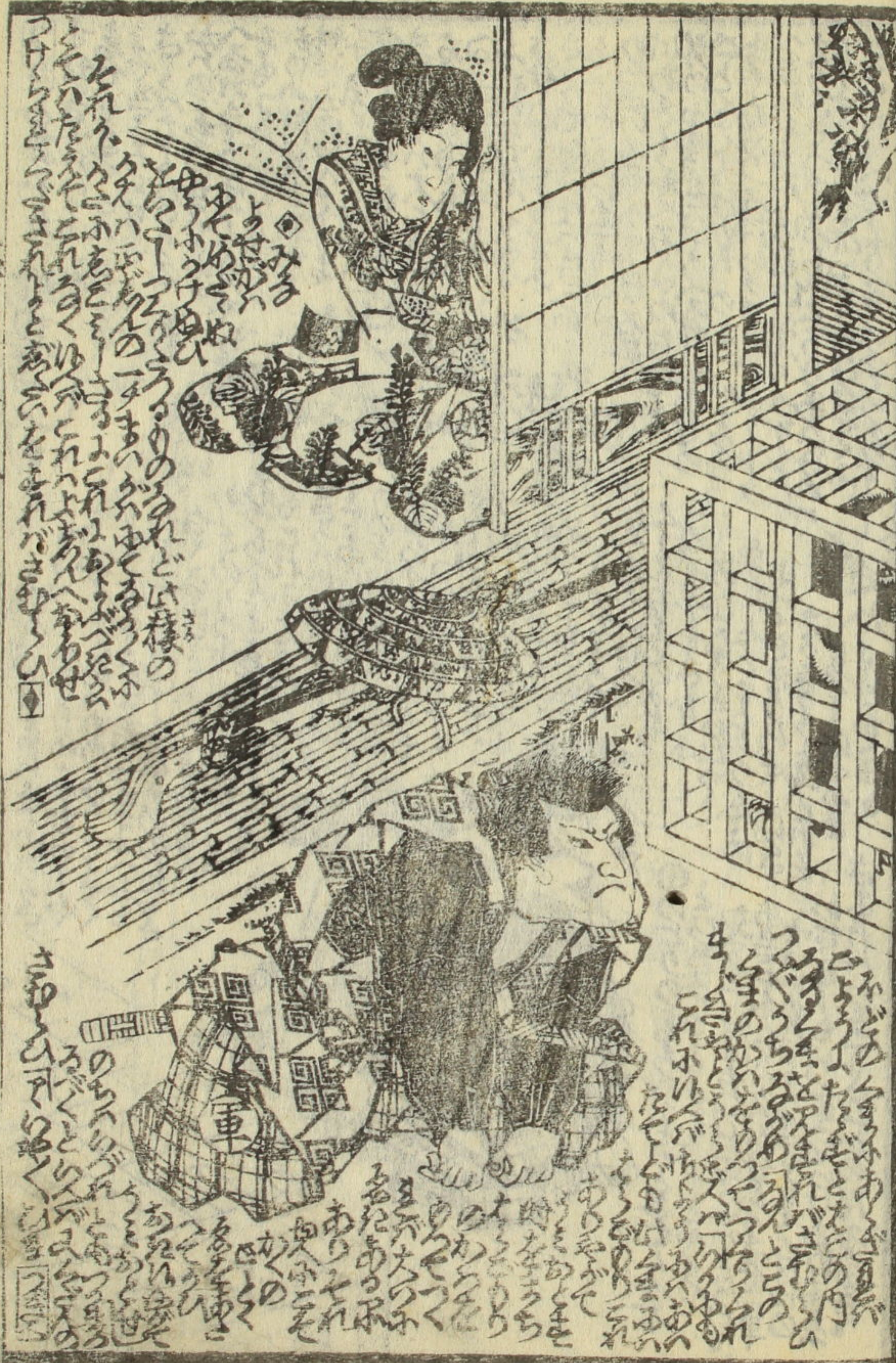


ついでとありては
 不やかんとおれり
 生かされてゐるか
 さらば死にまわ
 たらせんや
 このちから
 いかん
 こゝろ
 いかん
 こゝろ

ついでとありては
 不やかんとおれり
 生かされてゐるか
 さらば死にまわ
 たらせんや
 このちから
 いかん
 こゝろ
 いかん
 こゝろ

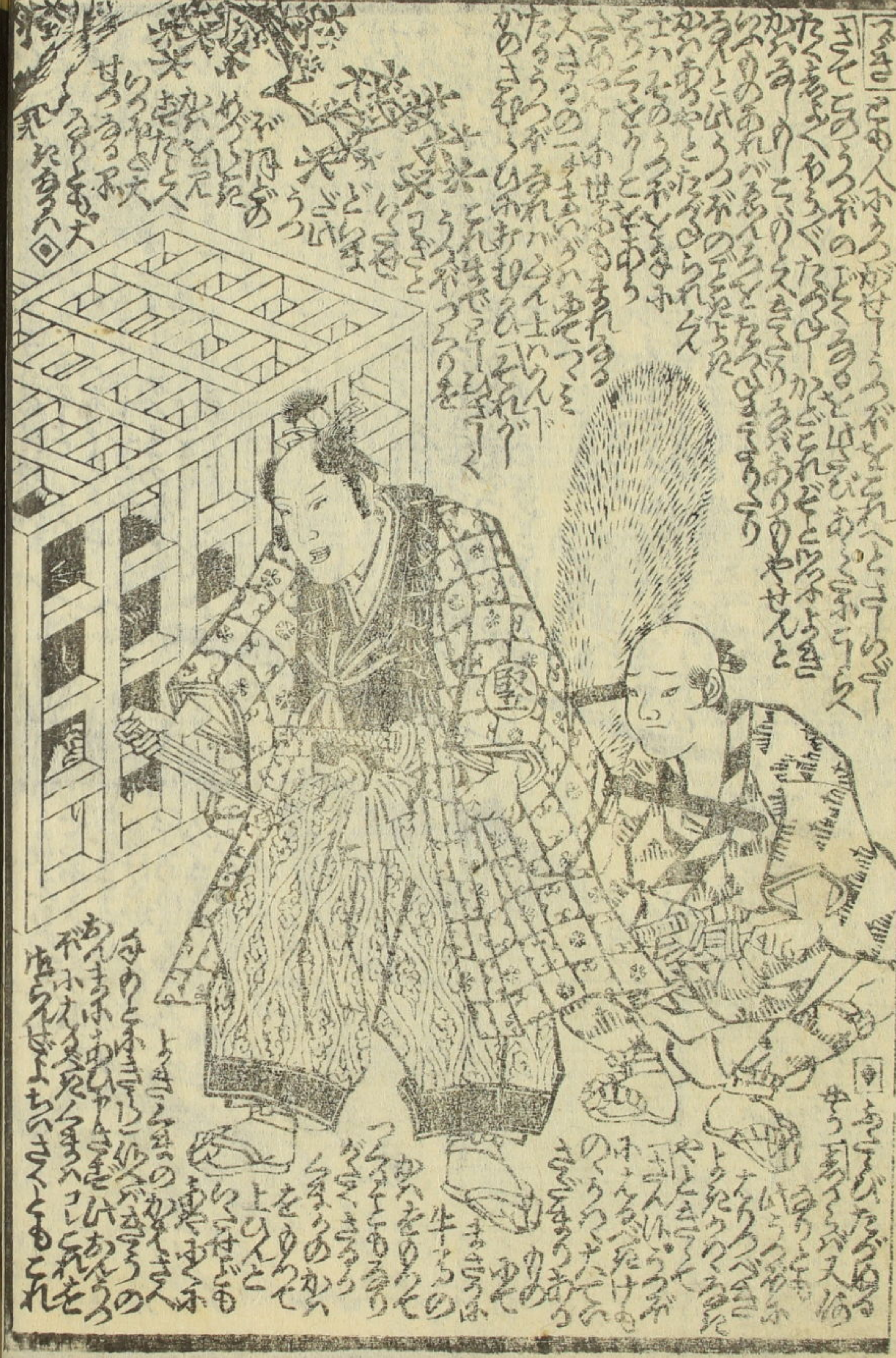


ついでとありては
 不やかんとおれり
 生かされてゐるか
 さらば死にまわ
 たらせんや
 このちから
 いかん
 こゝろ
 いかん
 こゝろ



大
文
二

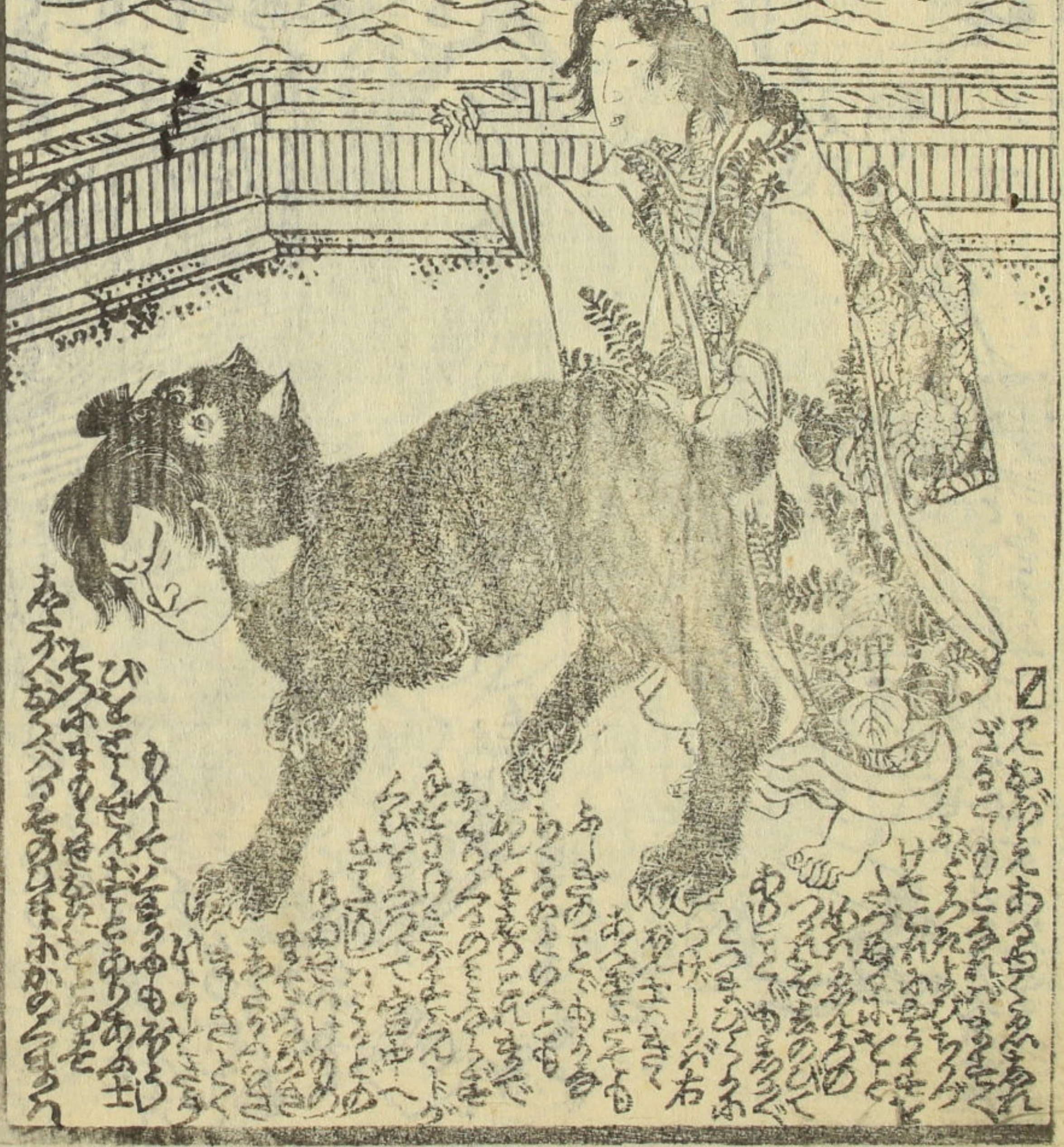
十
四



大
文
三

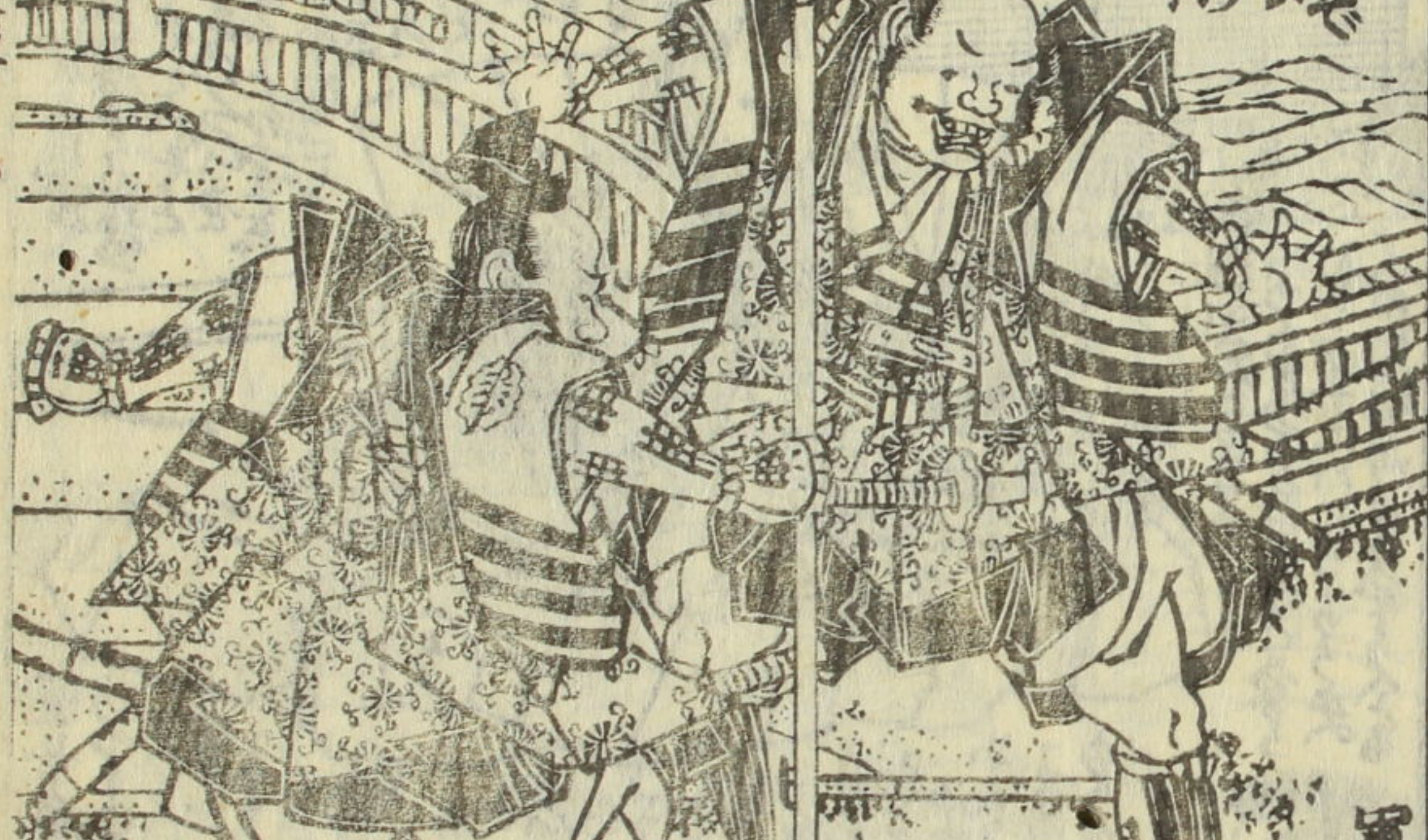
十
五

いふにけふのや
 こゝろのしるし
 むねのけしき
 まてけしき
 さのあはれ
 ひろく
 こゝろのしるし
 まてけしき
 さのあはれ
 ひろく
 こゝろのしるし
 まてけしき
 さのあはれ
 ひろく



あはれ
 ひろく
 こゝろのしるし
 まてけしき
 さのあはれ
 ひろく
 こゝろのしるし
 まてけしき
 さのあはれ
 ひろく

あはれ
 ひろく
 こゝろのしるし
 まてけしき
 さのあはれ
 ひろく
 こゝろのしるし
 まてけしき
 さのあはれ
 ひろく



あはれ
 ひろく
 こゝろのしるし
 まてけしき
 さのあはれ
 ひろく
 こゝろのしるし
 まてけしき
 さのあはれ
 ひろく

徳兵衛

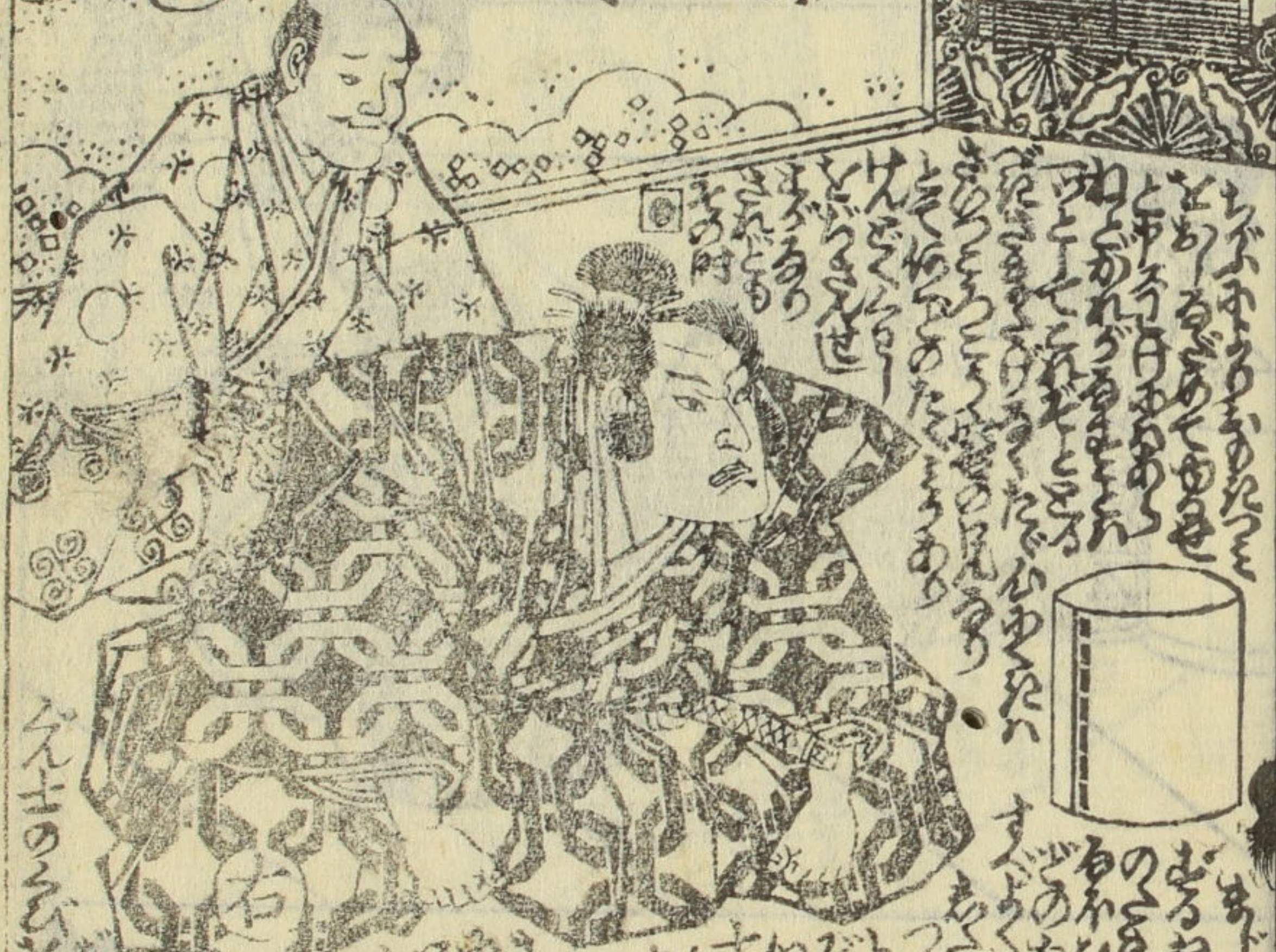
あつたやうな士であつた... 徳兵衛の心算... 徳兵衛の心算... 徳兵衛の心算...



徳兵衛の心算... 徳兵衛の心算... 徳兵衛の心算...

徳兵衛の心算... 徳兵衛の心算... 徳兵衛の心算...

あつたやうな士であつた... 徳兵衛の心算... 徳兵衛の心算...



あつたやうな士であつた... 徳兵衛の心算... 徳兵衛の心算...



倭文庫十編

上





釋迦八相

倭文庫十編上

万亭應賀作
一陽齋豊國画

弘化五
戊申
孟陽
錦重
堂
上梓
門人
國政画



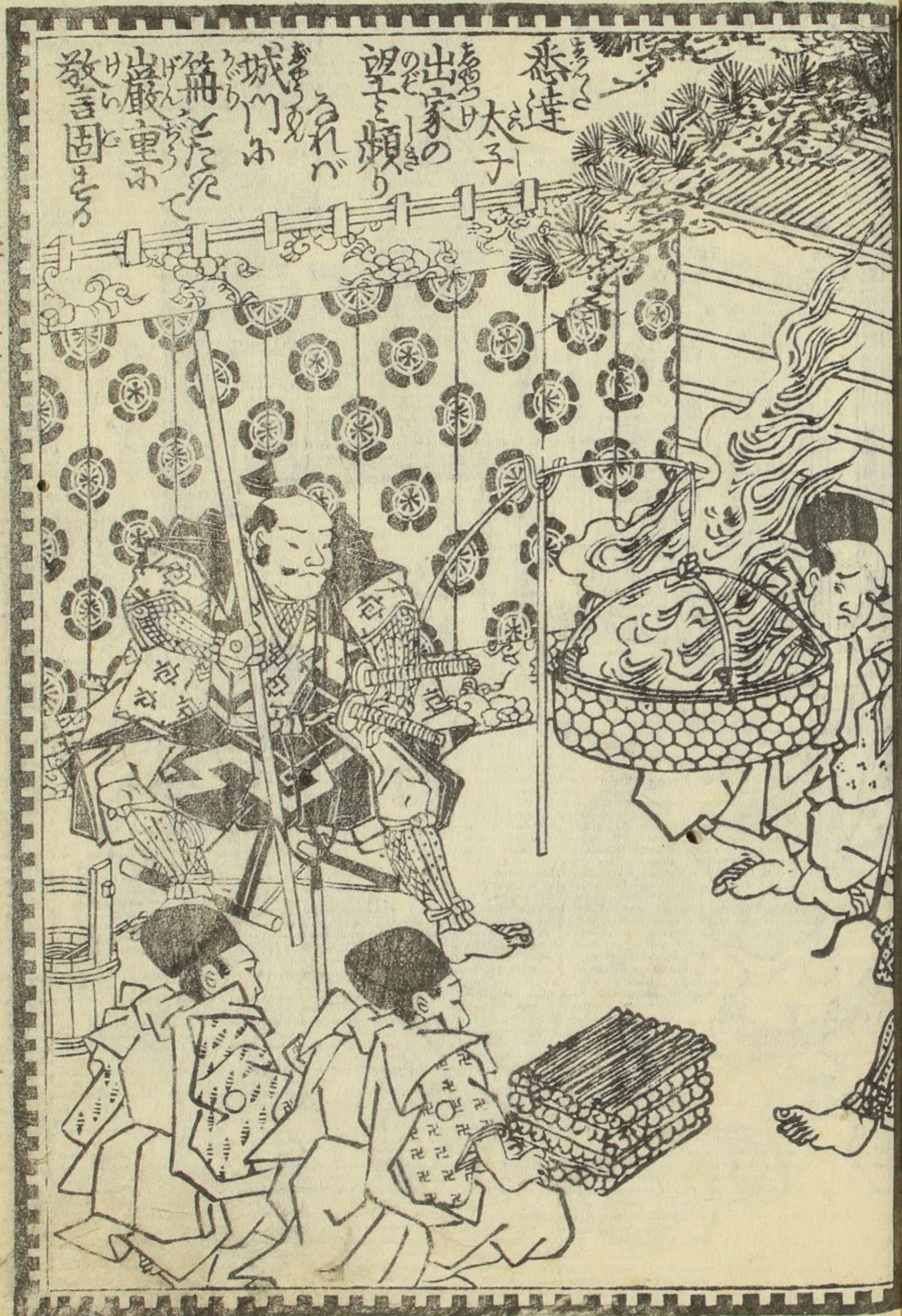
釋迦八相倭文庫拾編序

一書曰太子成人て出家の發願切られ父帝波婆羅門
優陀夷を召て太子の友とすしとふれ諫之と止とるく十
七歳中て耶輸陀羅女を娶れと契室の念更なるく十九
歳中て不老無病不死不別此四の願ひ叶へて出家の望を
切へると云帝愁ひて日定の得と不能今朕嗣子に有一子バ許ん
とのり太子とするち耶輸陀羅女の腹を指さずバ勿羅睺羅
天より復投て化託あり其夜捷勝の馬の乗り車運連
て檀持山へ赴く時小周の昭王四十四年二月八日と云此説小
異らみる戲作のまことと讀めよ

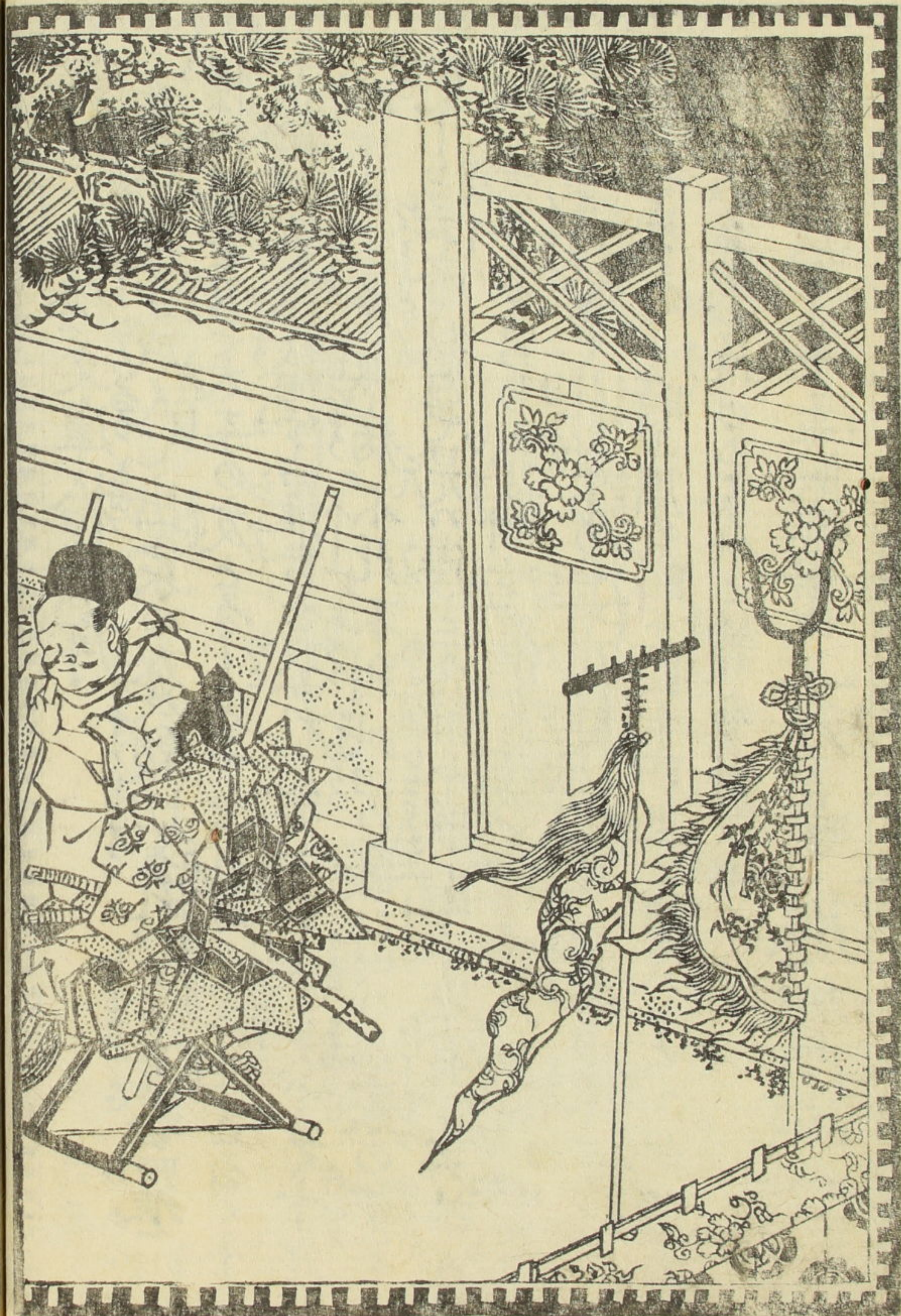
弘化五戊申年孟陽發齋南
万亭應賀識

倭文庫十編上

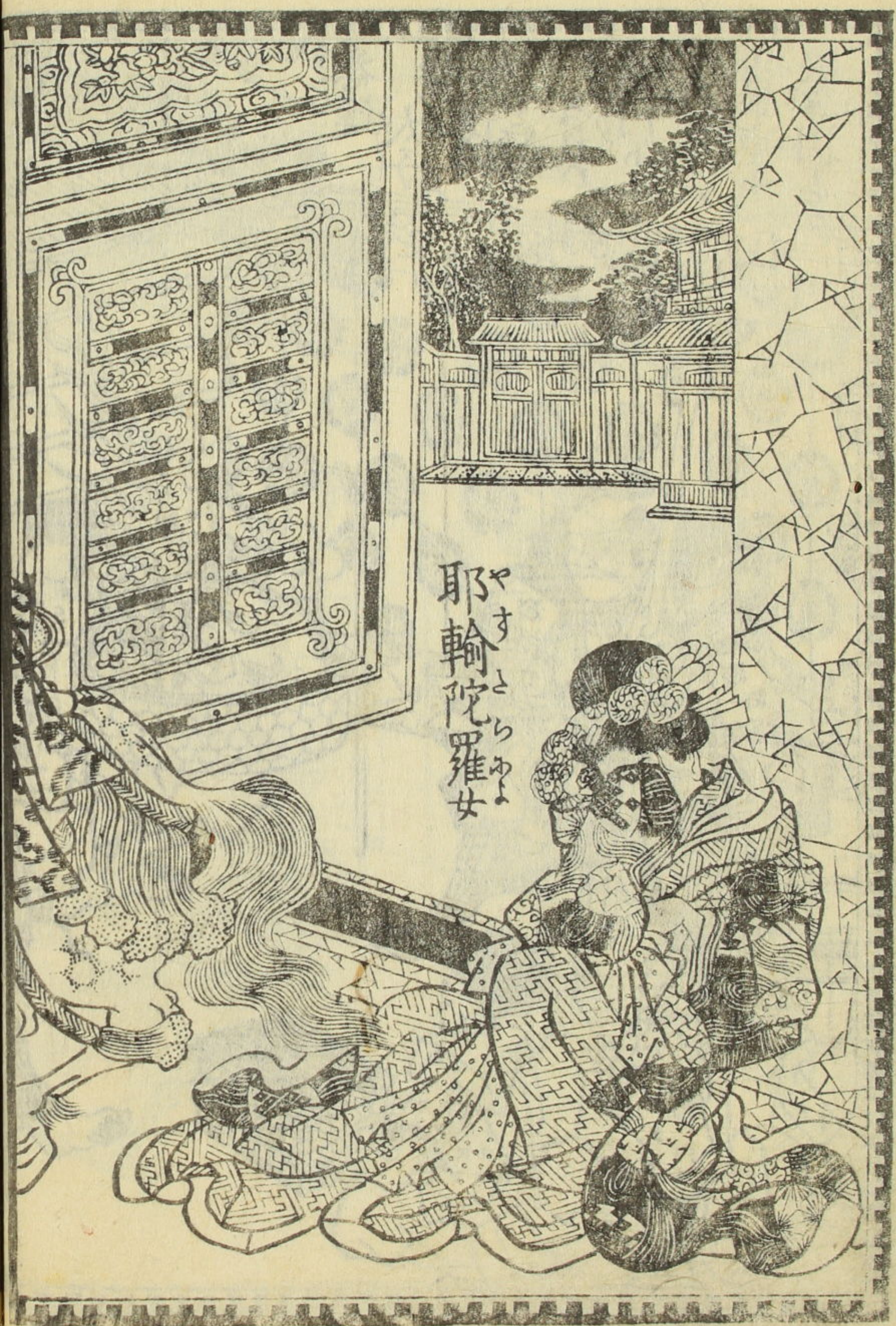
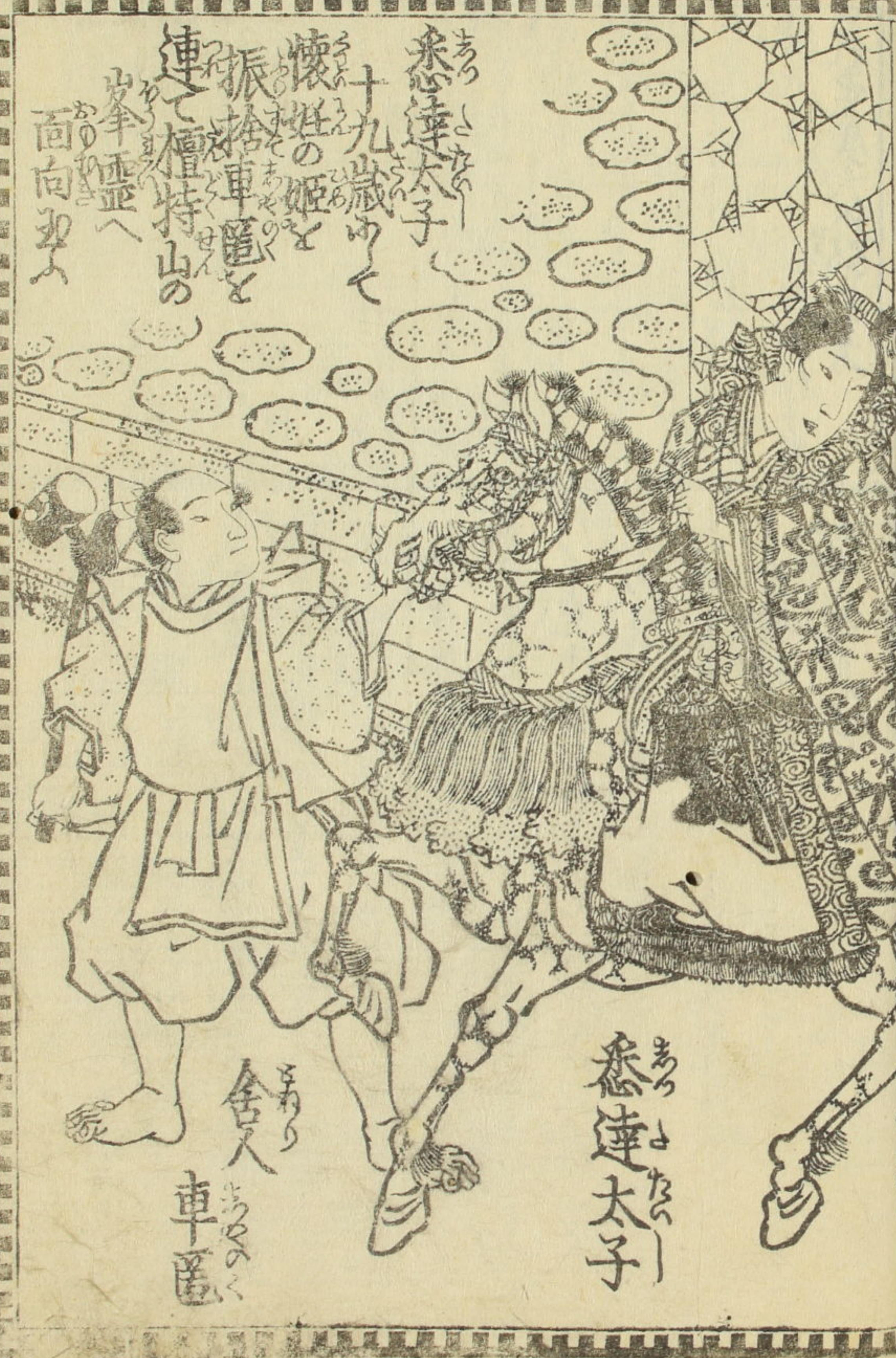




永女
 文
 上
 百
 一



永女
 文
 上
 百
 一



佛法濫觴

中華之後漢明帝七年
摩騰竺法蘭佛經將來
日本中での體體帝十六年
深司馬達等來て奉佛
熱も信ぜ人王三代
欽明帝十三年壬申の歲冬
十月百濟國聖明王佛像
及び千卷の經論貢て物部
尾與中臣鏞大臣
いひて仏敎を
仏具を難波の堀江乘
その後用明天皇の皇子聖
德太子深く佛法を信じて
これを廣大の弘め給ふ

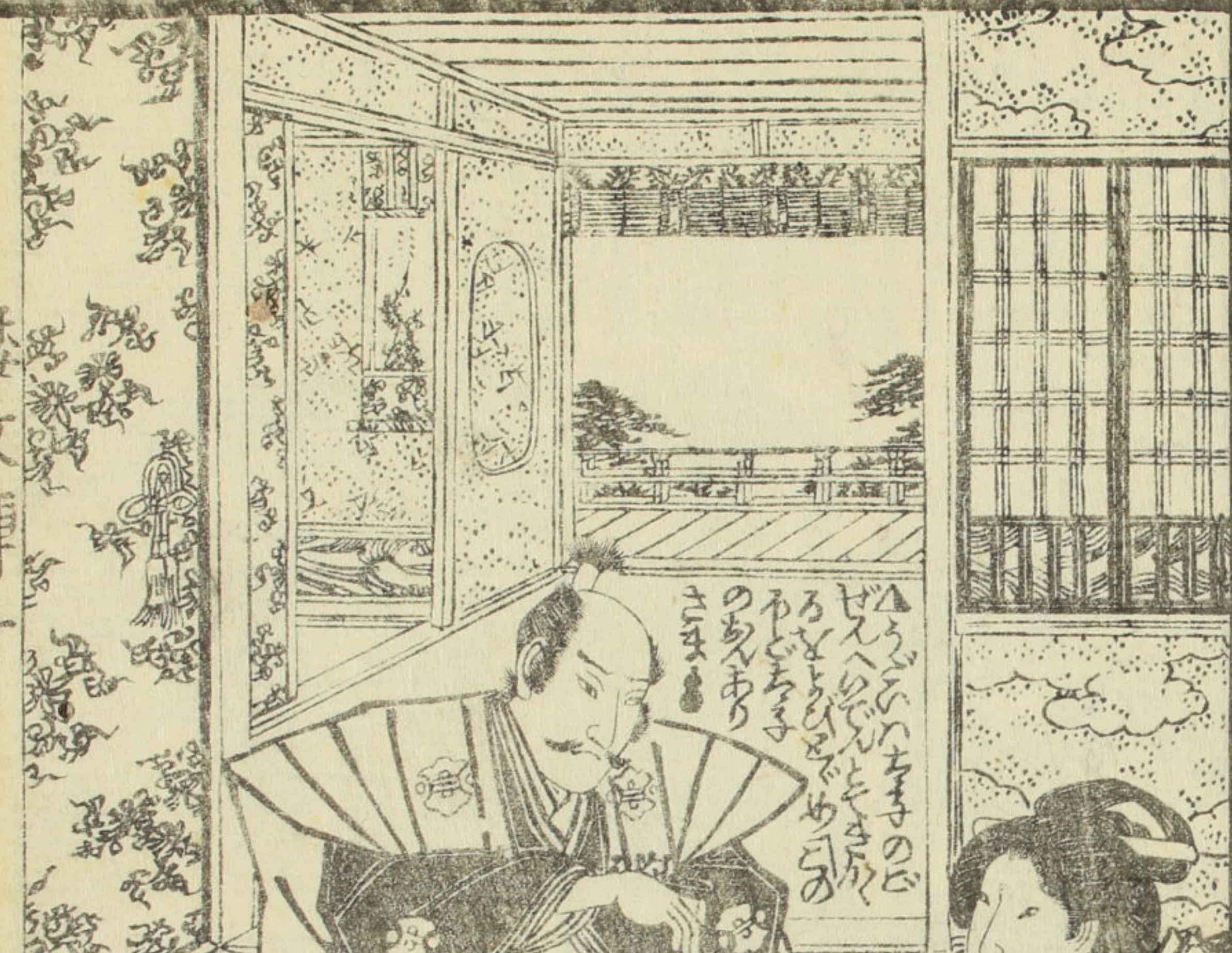
凡例

此は元より今様の人情のつらぬきと
文庫と題して巴の初巻の婆羅門の優陀美
を臣識の見え又悉達九文之願以此が
徳の文を唱ふてをとりめいかりき度
とも猶末まて央舉てをかく^七授太子前世
八千度生と出るの中ゆも尸毘大王と生れ時
鳩のまの肉身をとり又薩埵王子と生れ時ハ
たる虎の身をとりを此たぐひの物がり
末の巻ふくるころもとバ前後の差別ふ合の
あともそのまたごとふらひりやどる都て初編
より終冊まの拙き度と記せらる茲小あきま
かく事とらる

万亭應賀述

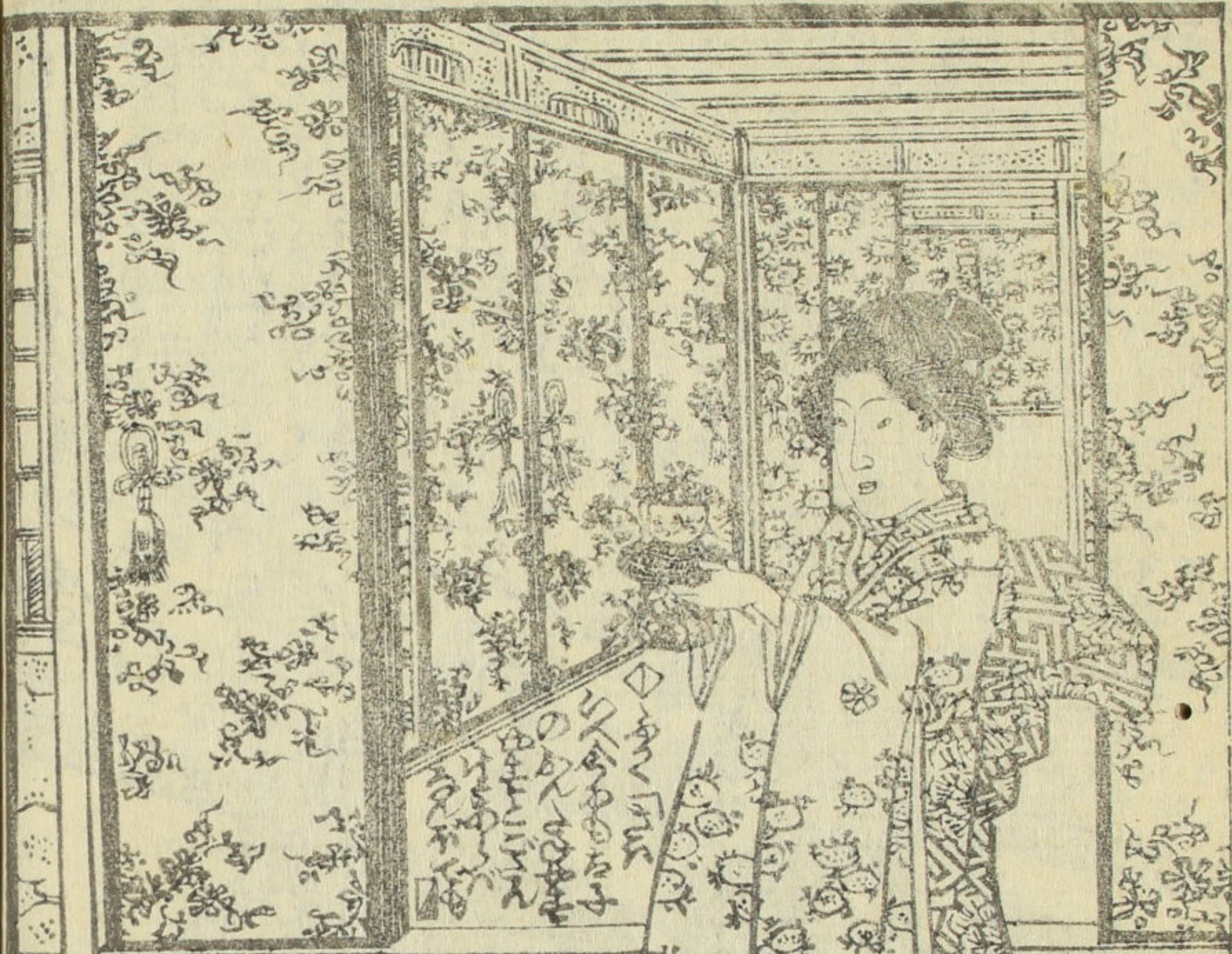
この書は元より今様の人情のつらぬきと
文庫と題して巴の初巻の婆羅門の優陀美
を臣識の見え又悉達九文之願以此が
徳の文を唱ふてをとりめいかりき度
とも猶末まて央舉てをかく^七授太子前世
八千度生と出るの中ゆも尸毘大王と生れ時
鳩のまの肉身をとり又薩埵王子と生れ時ハ
たる虎の身をとりを此たぐひの物がり
末の巻ふくるころもとバ前後の差別ふ合の
あともそのまたごとふらひりやどる都て初編
より終冊まの拙き度と記せらる茲小あきま
かく事とらる



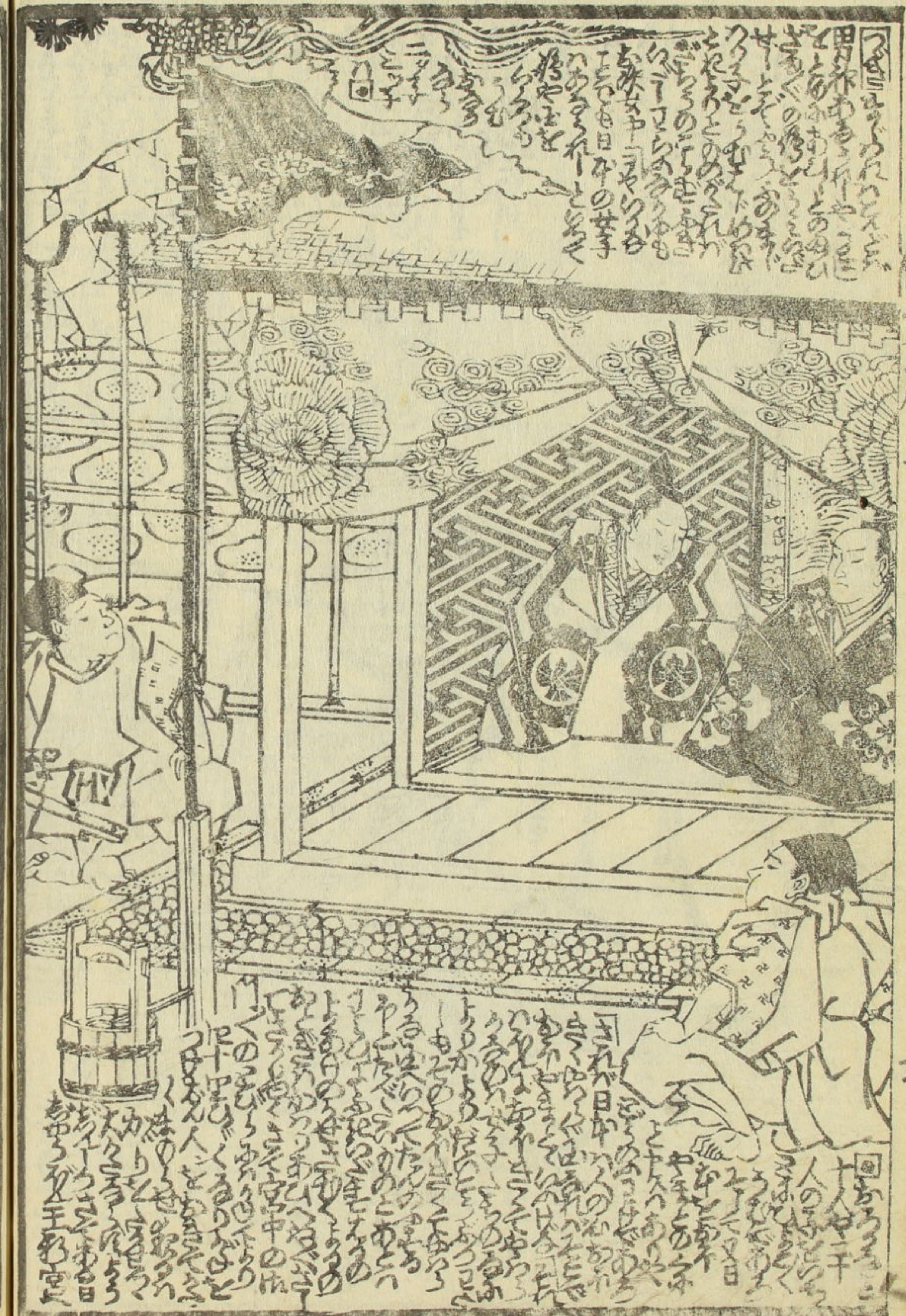
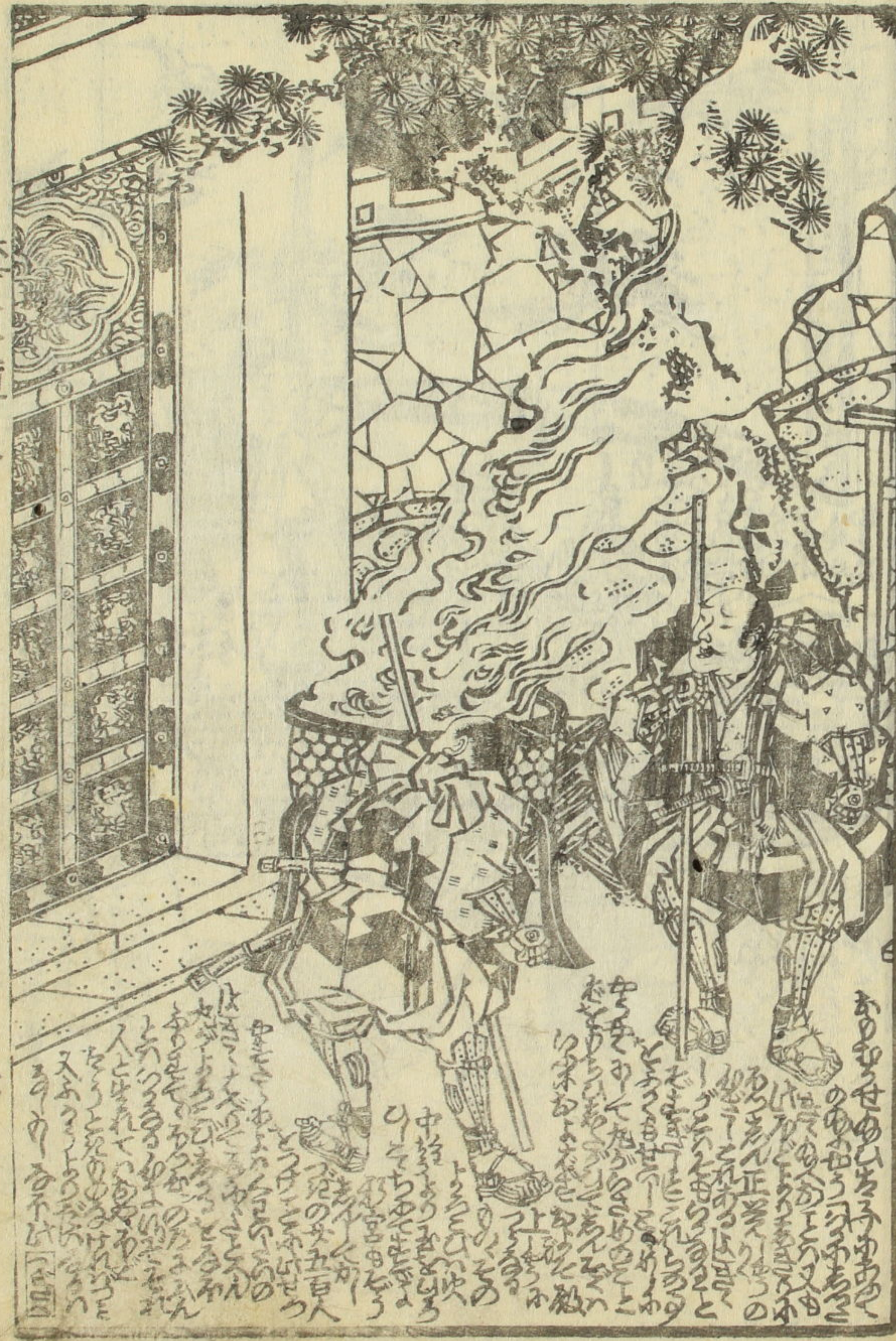


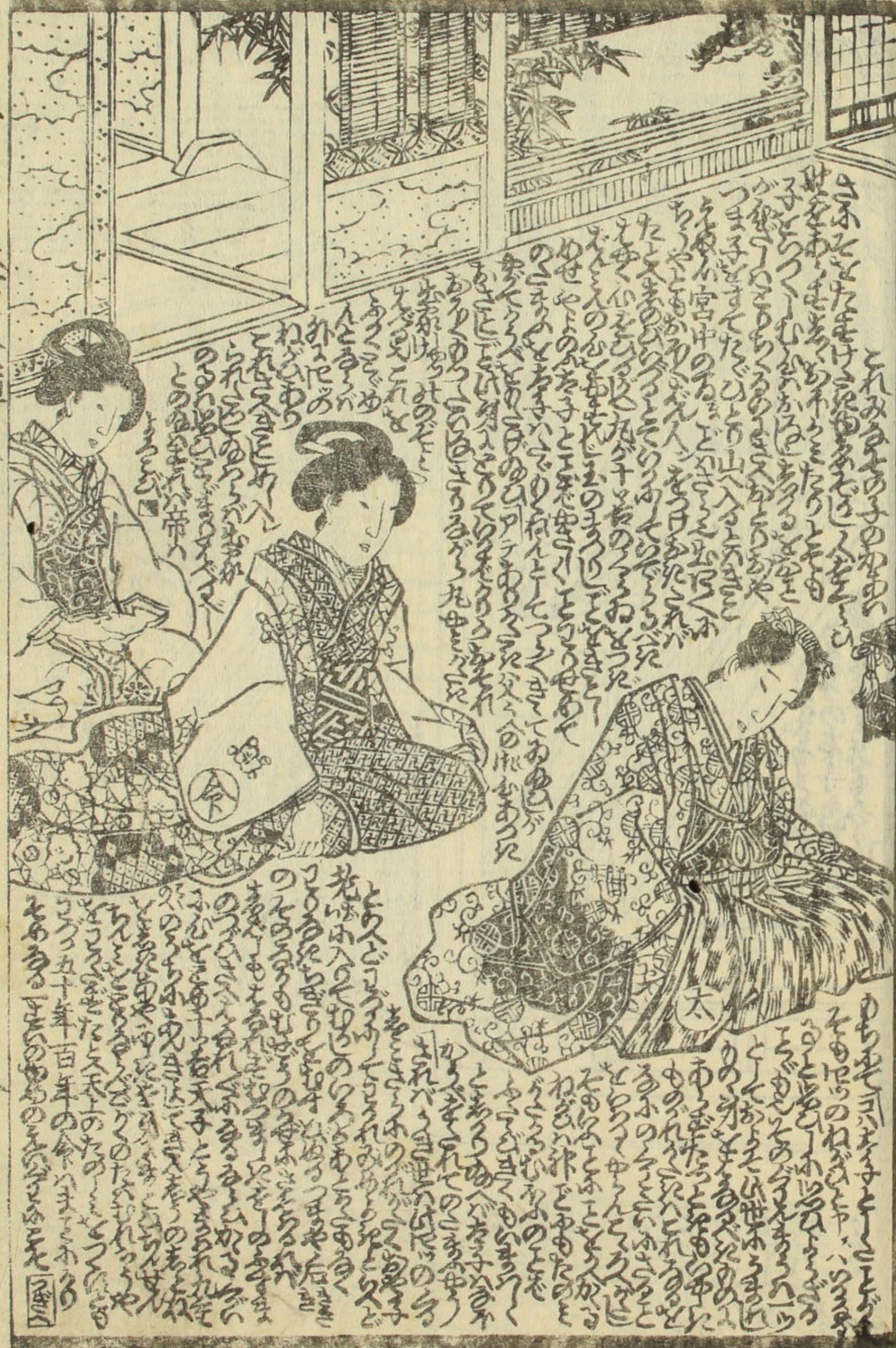
△うらなひまの心
せへんといふまに
るまゝのまゝの
のあり
まゝ

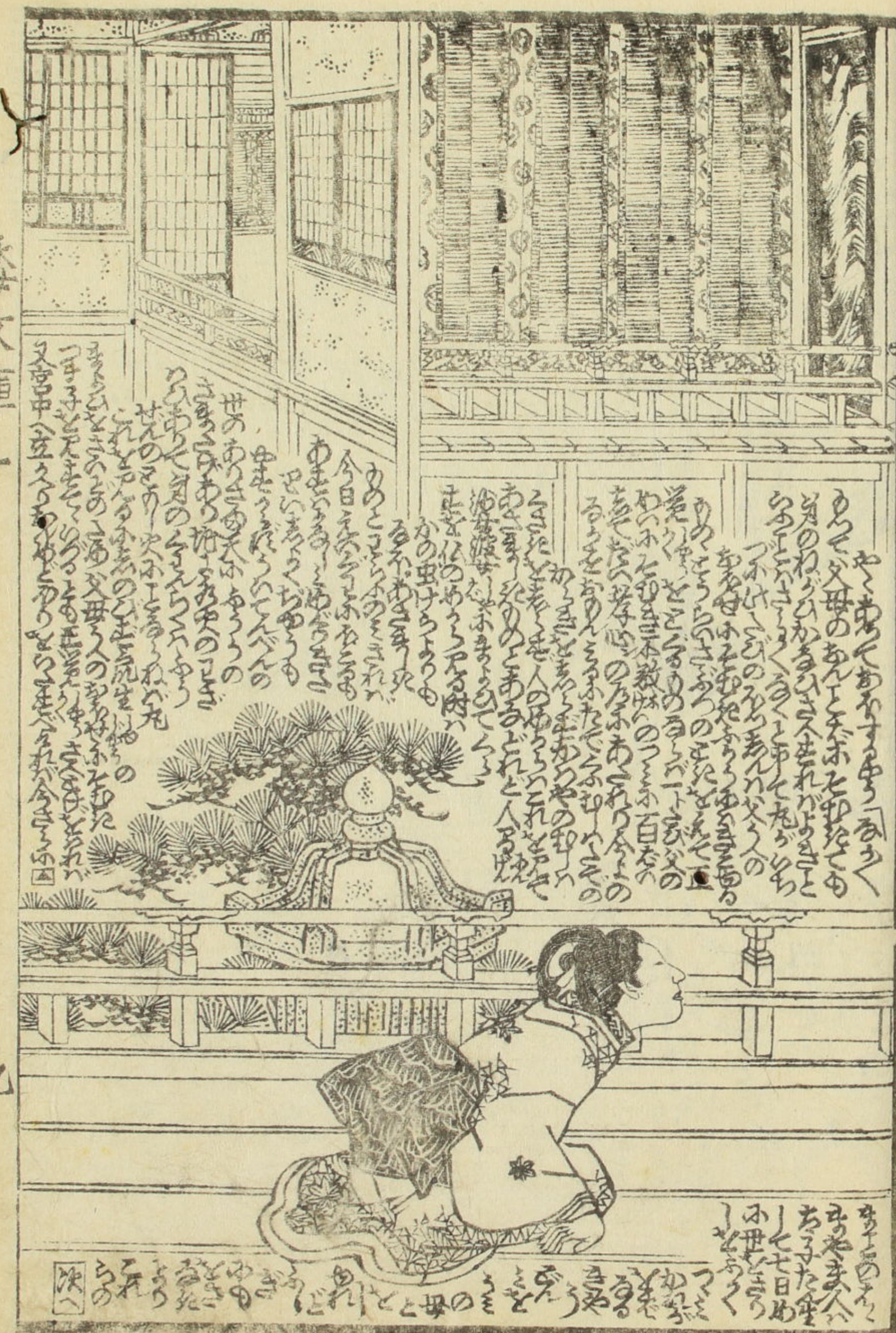
△うらなひまの心
せへんといふまに
るまゝのまゝの
のあり
まゝ



△うらなひまの心
せへんといふまに
るまゝのまゝの
のあり
まゝ





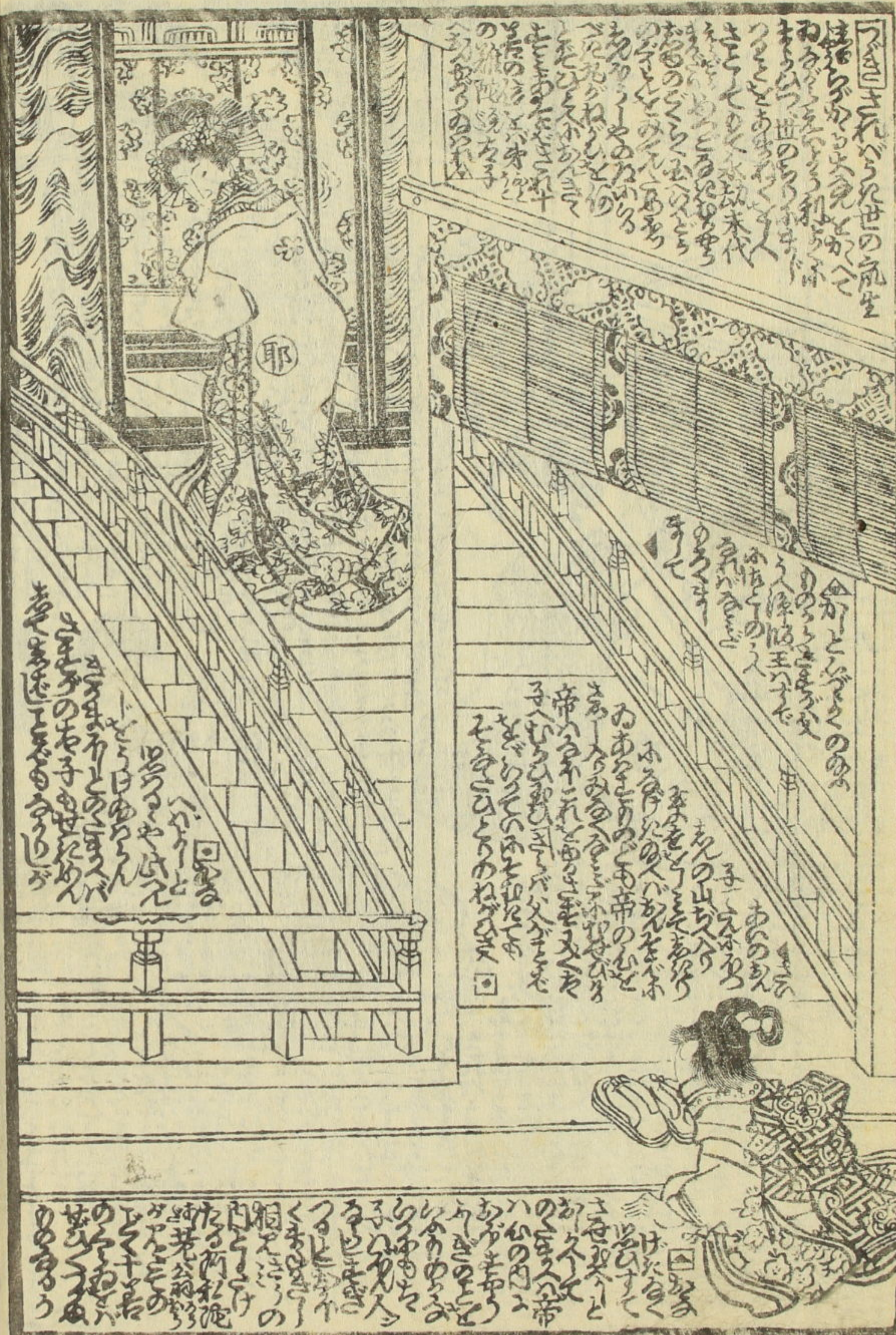


ついでにこれから世の氣を
はぢりぬけんとせんぞかて
わが心は世の氣をわが
ついでにこれから世の氣を
はぢりぬけんとせんぞかて
わが心は世の氣をわが

わが母のあんなまをわが
月のわがあんなまをわが
わが母のあんなまをわが
月のわがあんなまをわが

あんなまをわが
月のわがあんなまをわが
あんなまをわが
月のわがあんなまをわが

水文重



あんなまをわが
月のわがあんなまをわが
あんなまをわが
月のわがあんなまをわが

あんなまをわが
月のわがあんなまをわが
あんなまをわが
月のわがあんなまをわが

あんなまをわが
月のわがあんなまをわが
あんなまをわが
月のわがあんなまをわが

あんなまをわが
月のわがあんなまをわが
あんなまをわが
月のわがあんなまをわが

あんなまをわが
月のわがあんなまをわが
あんなまをわが
月のわがあんなまをわが

錦重堂新板繪草紙目錄

重繪草紙錦繪本類	日蓮記旭衣	紫菜淺草土産	神代藻塩草	忠義赤松譚	八釋相倭文庫
元大坂町代地角	初編 二編	四編 五編	初編 二編	四編 五編 六編 七編	士編 士編 士編 士編
上洲屋重藏版	万亭應賀作	一返舎一九作	万亭應賀作	如淵外史作	万亭應賀作
	陽齋豊國画	陽齋豊國画	陽齋豊國画	陽齋豊國画	陽齋豊國画

應賀作豊國画

此の画は、豊國の筆によるもので、人物の描写が非常に精緻である。背景には花鳥の文様が散り、全体的に華やかで洗練された印象を与える。人物の服装も、当時の流行を忠実に再現している。



此の画は、豊國の筆によるもので、人物の描写が非常に精緻である。背景には花鳥の文様が散り、全体的に華やかで洗練された印象を与える。人物の服装も、当時の流行を忠実に再現している。

一陽齋豊国画

万亭應賀作



錦重堂板

弘化五
戊申春

下



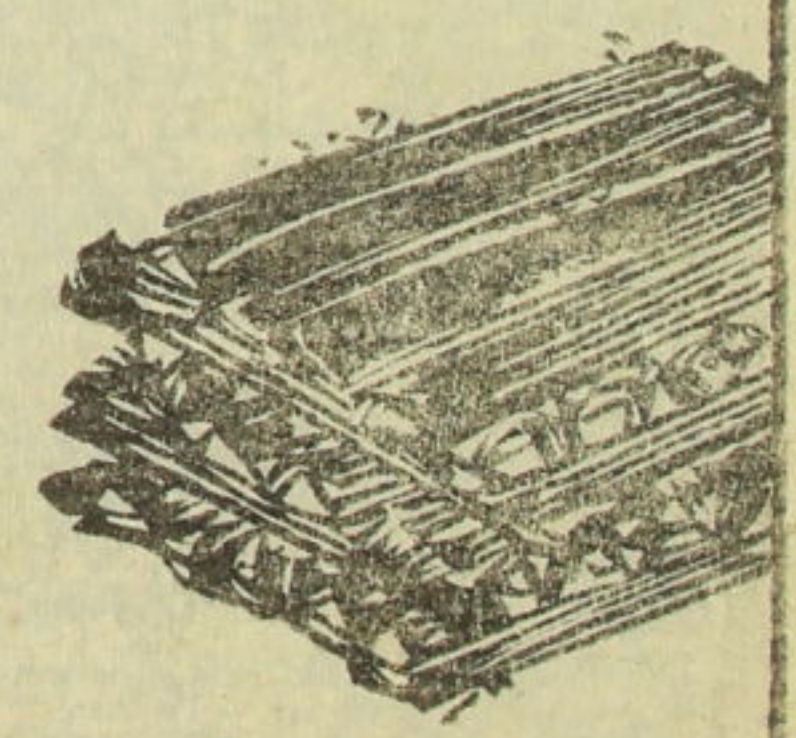
豊國画
 上州屋板
 口人
 玉政画
 大
 豊國画
 上州屋板
 口人
 玉政画

委文庫十



豊國画
 上州屋板
 口人
 玉政画

戊申
 の春
 新刻





おつとてええ
おひるれおつとてえ
と山七ん入るうある
とうそのおつとてえ

おつとてええ
おひるれおつとてえ
と山七ん入るうある
とうそのおつとてえ

おつとてええ
おひるれおつとてえ
と山七ん入るうある
とうそのおつとてえ

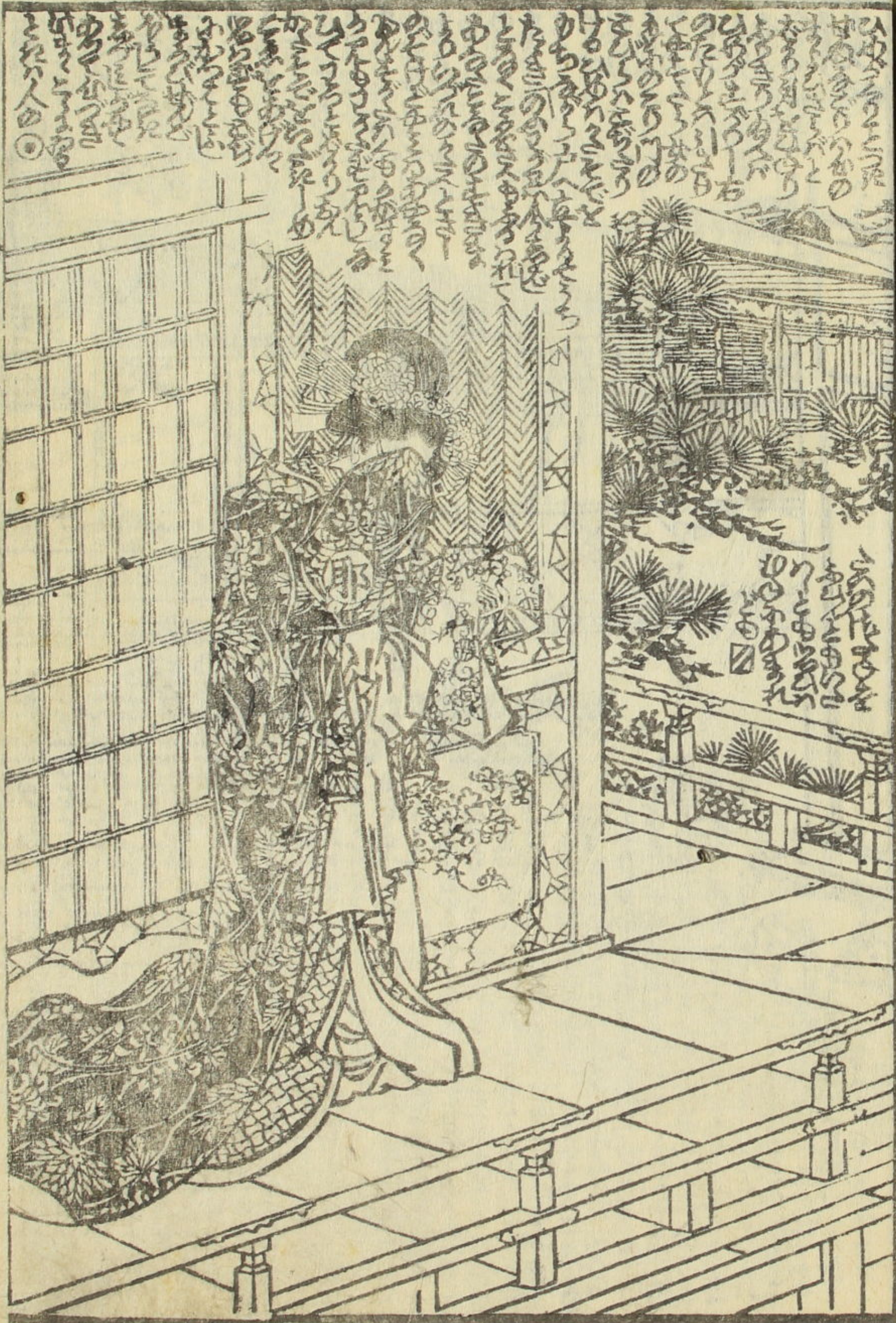
おつとてええ
おひるれおつとてえ
と山七ん入るうある
とうそのおつとてえ



おつとてええ
おひるれおつとてえ
と山七ん入るうある
とうそのおつとてえ

おつとてええ
おひるれおつとてえ
と山七ん入るうある
とうそのおつとてえ

おつとてええ
おひるれおつとてえ
と山七ん入るうある
とうそのおつとてえ



海文堂

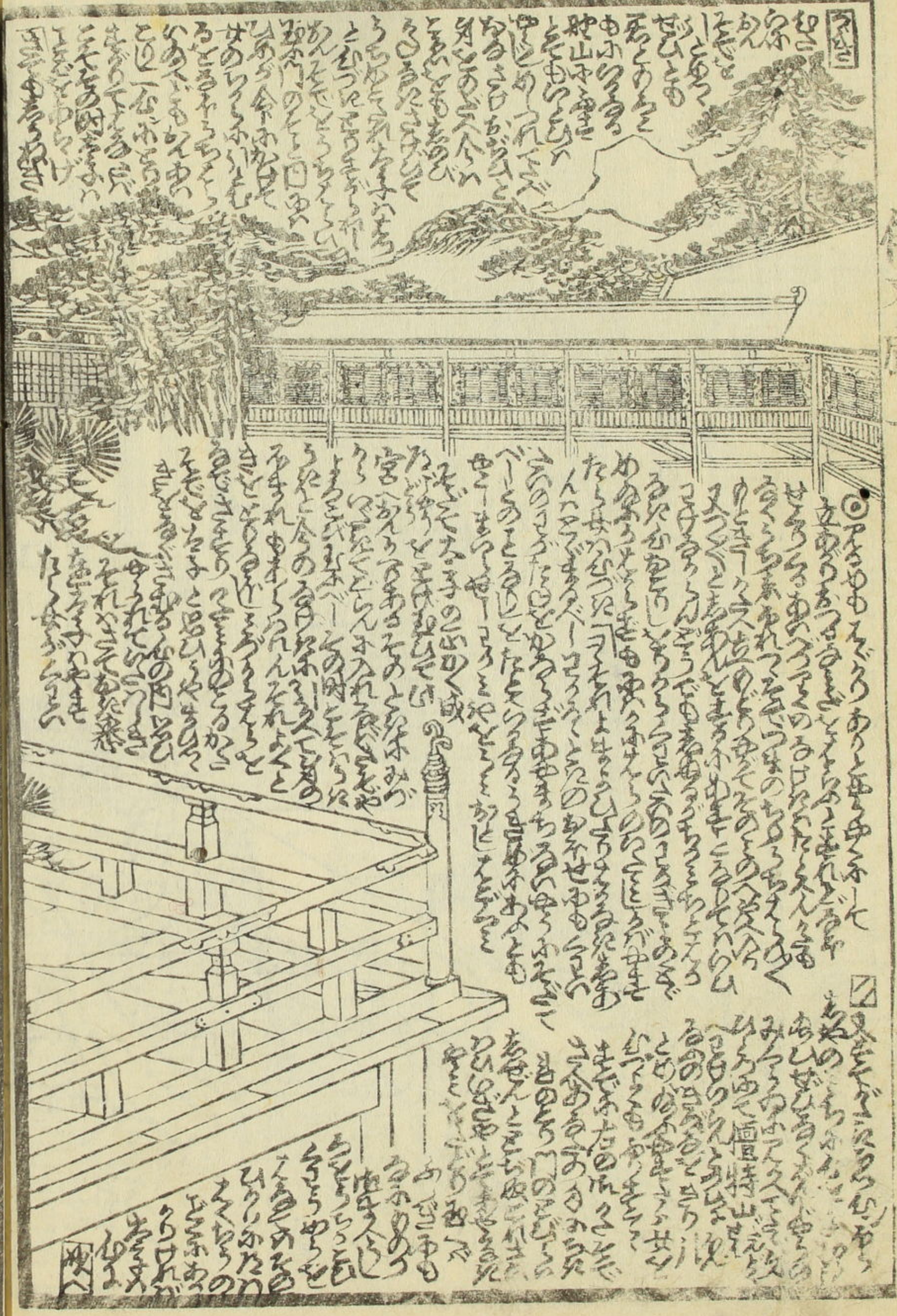
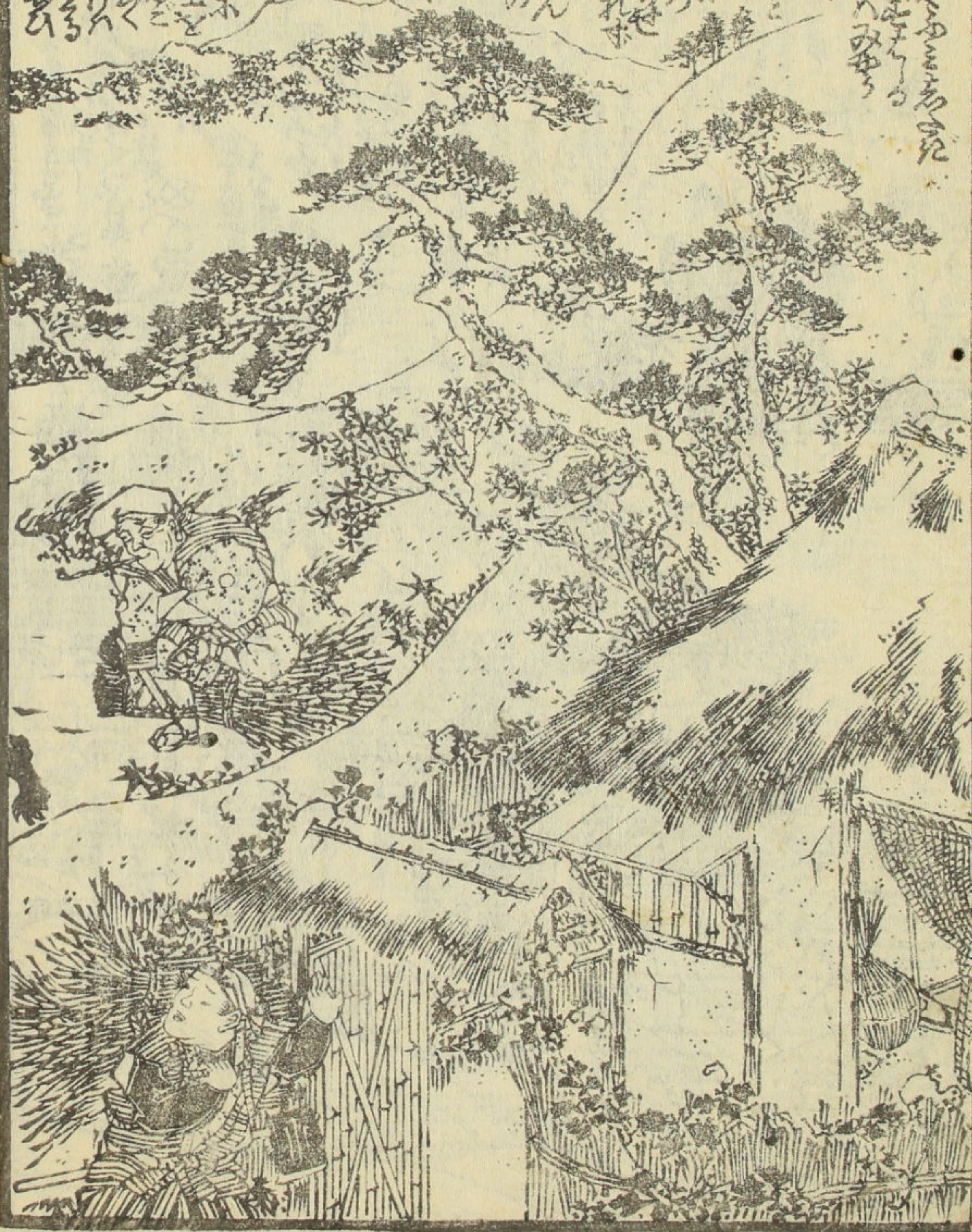




Figure 10

百五里の庄野
 道のりしを
 谷川に流るる
 と又二百
 里の山陽
 里の中
 つまみ一秋の肉
 平に百餘里を
 歩かうかの
 山にひつらつら
 山にひつらつら



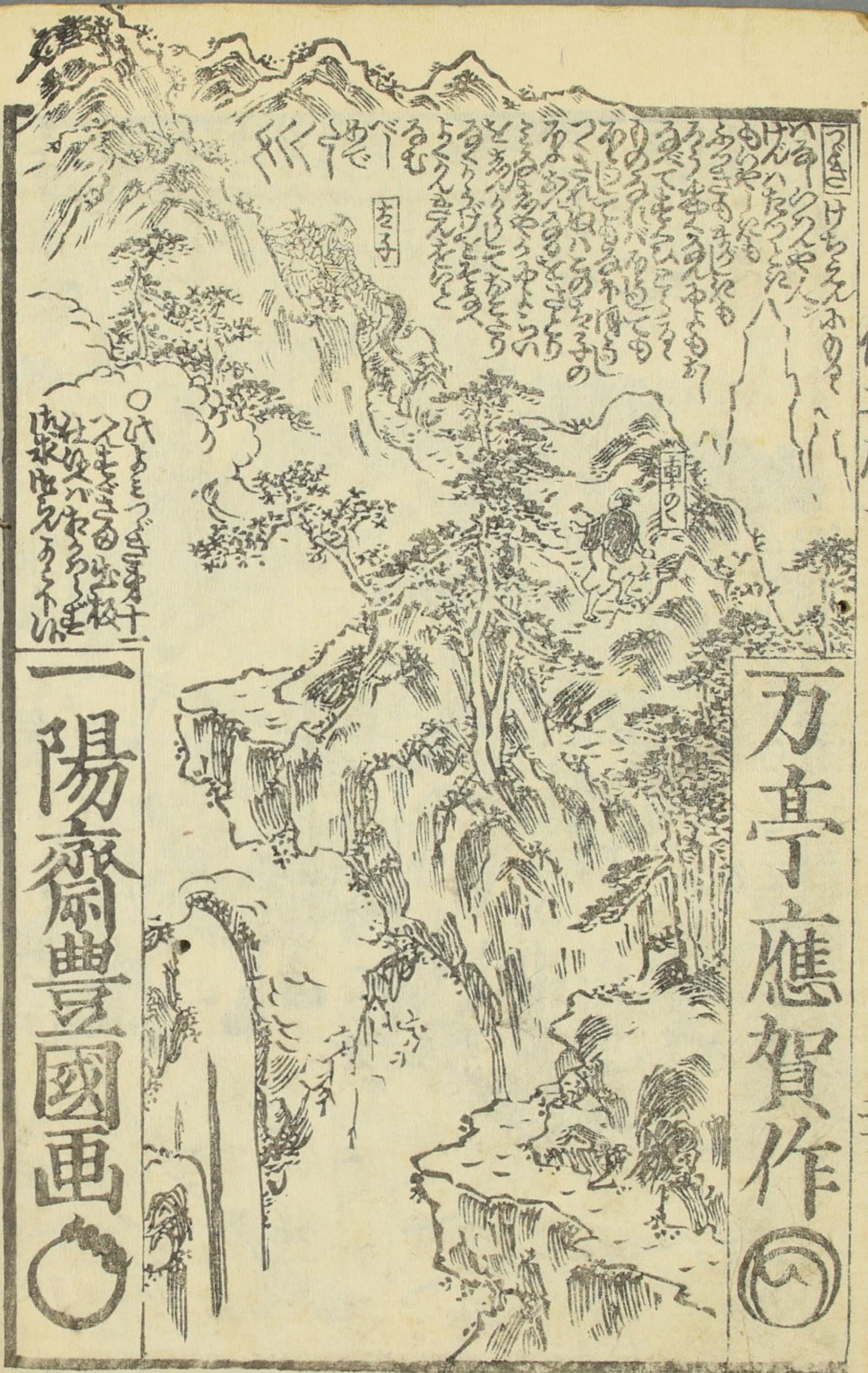
ちやてあまを
 りんとて下
 つるくを
 くれいの子
 せつと金
 ちやてあまを
 りんとて下
 つるくを
 くれいの子
 せつと金
 ちやてあまを
 りんとて下
 つるくを
 くれいの子
 せつと金



田舎の
 のどろ
 のどろ
 のどろ

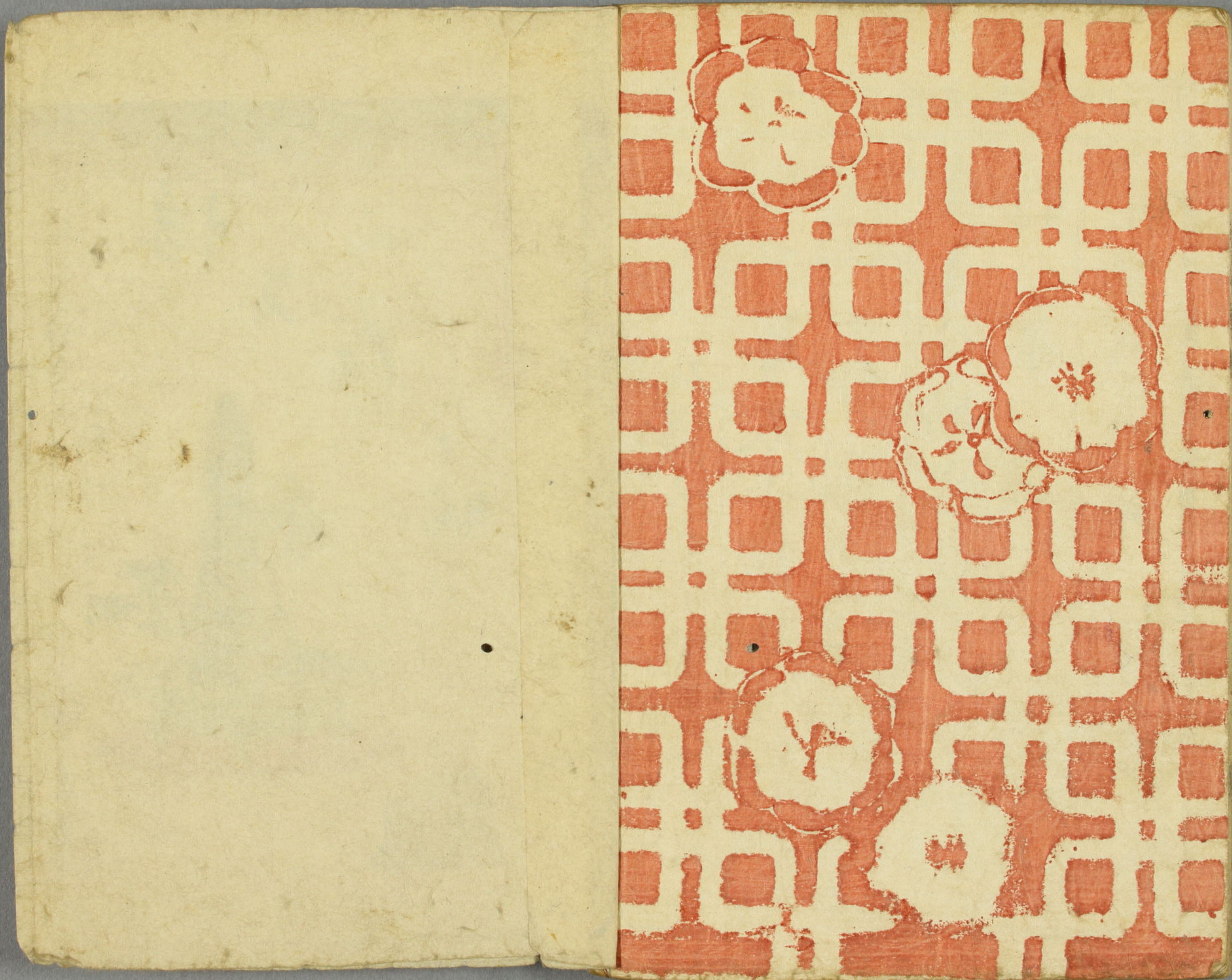
嘉永二年己酉新春新板目錄

重地本錦繪團扇	將棊双六	奧奉公出世双六	武藝立身館双六	倭文庫太子双六	二奧奉公編娘一代成人双六
元大坂町代地角 上洲屋重藏版	力亭應賀作 陽齋豊國画	力亭應賀作 陽齋豊國画	力亭應賀作 陽齋豊國画	力亭應賀作 陽齋豊國画	力亭應賀作 陽齋豊國画



一陽齋豊國画

力亭應賀作



倭

文

庫

戊申
新板

十編



万
一
万
一

錦
重
本
板

後
重
本
板

